

# 卒業論文

## 環境・生体データログからの 勾配・制約を考慮したPSOによる 行動パターン解析

Similarity and Event Detection by Behavior Pattern Analysis from  
Environment Recognition Life Log

富山県立大学 電子・情報工学科  
1515050 山本 聖也  
指導教員 奥原 浩之 教授  
平成30年2月6日



# 目 次

図一覧	iii
表一覧	iv
記号一覧	vi
<b>第1章 序論</b>	<b>1</b>
§ 1.1 本研究の背景	1
§ 1.2 本研究の目的	2
§ 1.3 本論文の概要	2
<b>第2章 ライフログと各種センサ</b>	<b>4</b>
§ 2.1 現状のライフログ	4
§ 2.2 各種センサとマイコンの概要	6
§ 2.3 無線によるセンサデータ収集	8
<b>第3章 センサデータからの行動識別</b>	<b>12</b>
§ 3.1 行動識別	12
§ 3.2 行動識別のための分析手法	12
§ 3.3 類似性・イベント性	18
§ 3.4 センサデータを用いた類似性・イベント性	20
<b>第4章 提案手法</b>	<b>22</b>
§ 4.1 勾配系を考慮したPSO	22
§ 4.2 制約がある場合のPSO	26
§ 4.3 PSOによるクラスタリング	29
§ 4.4 提案手法のアルゴリズム	31
<b>第5章 結論ならびに今後の課題</b>	<b>32</b>
謝辞	34
参考文献	36

<b>付録</b>	<b>40</b>
A. 1 ライログデータ取得アプリケーションのソースコード . . . . .	40
A. 2 時系列 SOM を作成するソースコード . . . . .	41

# 図一覧

2.1 ヘルスケア <sup>1</sup> . . . . .	5
2.2 アクティビティ <sup>2</sup> . . . . .	5
2.3 マッピング-GPS ログまとめて全部記録 <sup>3</sup> . . . . .	6
2.4 Swarm <sup>4</sup> . . . . .	6
2.5 Apple Watch <sup>10</sup> . . . . .	7
2.6 CALM-M <sup>11</sup> . . . . .	7
2.7 Arduino UNO . . . . .	8
2.8 Raspberryi 3.0 . . . . .	8
2.9 Google maps <sup>21</sup> . . . . .	8
2.10 Tera term <sup>22</sup> . . . . .	9
2.11 XAMPP <sup>23</sup> . . . . .	9
2.12 データの可視化 <sup>25</sup> . . . . .	11
2.13 データフロー <sup>26</sup> . . . . .	11
3.1 行動の記録 (LifeLog) <sup>10</sup> . . . . .	13
3.2 Kinect <sup>TM</sup> . . . . .	13
3.3 強制抽出する語の指定の一部 . . . . .	14
3.4 Stop words の一部 <sup>24</sup> . . . . .	14
3.5 センサデータから作成したクラスター分析 . . . . .	16
3.6 クラスター分析の併合標準 . . . . .	17
3.7 センサデータから作成した MDS . . . . .	17
3.8 センサデータから作成した対応分析 . . . . .	17
3.9 センサデータから KH Coder で作成した SOM . . . . .	19
3.10 データ A, データ B, データ C の例 . . . . .	19
3.11 実験場所 . . . . .	21
4.1 PSO の探索模式図 . . . . .	23
4.2 Rastrigin <sup>26</sup> . . . . .	28
4.3 Griewank <sup>27</sup> . . . . .	28
4.4 Rastrigin 実行結果 . . . . .	28
4.5 Griewank 実行結果 . . . . .	28
4.6 Matyas function <sup>28</sup> . . . . .	29
4.7 Booth function <sup>29</sup> . . . . .	29
4.8 Matyas 実行結果 . . . . .	29
4.9 Booth 実行結果 . . . . .	29
4.10 Booth 実行結果 N=100 の場合 . . . . .	30

# 表一覧

3.1 取得したセンサの数値データの一部その 1	15
3.2 取得したセンサの数値データの一部その 2	15
3.3 測定したデータの簡易化(一部)	21



# 記号一覧

以下に本論文において用いられる用語と記号の対応表を示す。

用語	記号
クラスター	$X, Y$
クラスター内での重心とサンプルとの距離の 2 乗和	$L(X), L(Y)$
クラスターの重心とクラスター内の各サンプルとの距離の 2 乗和	$L(X \cup Y)$
入力データベクトル	$x$
出力層のニューロンの番号	$i$
参照ベクトル	$m_i$
勝者ニューロン	$c$
勝者ニューロンとの距離によりガウス関数で減衰する係数	$h_{ci}$
$i$ 番目のニューロンの出力層上での位置	$r_i$
勝者ニューロンの出力層上での位置	$r_c$
学習回数	$t$
学習率係数	$\alpha(t)$
学習半径	$\sigma^2(t)$
位置	$x$
速度	$v$
運動量	$w$
0 から 1 の乱数	$r$
調整パラメータ	$c$
各個体の過去の最良個体	$x_{db}$
集団中の最良個体	$x_{gb}$
ステップ幅	$\phi$
粒子	$P$
固有値	$\lambda$
PSO の調整パラメータ	$\alpha, \beta, \gamma, \delta$
ニューラルネットワークのダイナミクスに由来する新しい行列	$X_\mu$
勾配情報	$\nabla E$



## 序論

### § 1.1 本研究の背景

近年、スマートフォンを始めとする様々なデバイスを身に着けることが一般的であり、情報技術の急速な発展が著しい。中にはウェアラブルデバイスと呼ばれるものがある。それらは個人の細やかな行動をデータとして蓄積し、記録しアプリケーションを介することにより快適なサービスをユーザーに提供するとともに、健康面の管理なども行ってくれるものも存在する。このようにスマートフォンやウェアラブルデバイスを使用して取得した行動のデータは、個人の生活に活かしたり、社会に活かしたりできると考えられている。

スマートフォンやウェアラブルデバイスの全地球測位システム (Global Positioning System, Global Positioning Satellite : GPS) から個人の位置情報を取得、解析するアプリケーションが多く存在し、スケジュール情報と合わせることによりコミュニケーションツールとして活用されたり [1]、受容性の高いライログの研究が行われている [2]。また、気温や湿度などのユーザーの周囲の環境情報と、ユーザー自身の体温や心拍数などの生体情報をログとして蓄積することにより、運動時の快適さ [3]、運動状態推定技術の開発 [4]、人体活動のモニタリングシステム [5] など、ユーザーの役に立つ情報の提示や、サービスの開発を行うことができる。

今の日本は高齢化問題、災害大国といった問題を抱えている。高齢化が進めば常時健康管理が必要な高齢者も多くなるだろう。そこでウェアラブルデバイスから環境・生体情報を管理することにより、高齢者が誤って引き起こしてしまう事故の事前の対策、看護師を始めとした医療従事者の業務の軽減が可能となる。災害時には位置情報を活用した避難システムを開発することにより、災害に対して事前に対策を講じることができる。

しかし環境ログや生体ログといったものは、データによっては精密な個人情報が含まれるため、不安や嫌悪感を感じる場合もあり、情報漏えいのリスクへの警戒など、技術面とは異なった問題も存在している。[6]。また、手動でライログデータを取得するアプリケーションも多く、未だライログの受容性は改善の余地がある。

環境・生体ログデータを取得する際にユーザーの負担を軽減するためにリアルタイムかつ迅速なウェアラブルデバイスの開発が必要であり、また従来法よりも有効な解析手法の

提案を行う必要があると考えられる。開発するデバイスは一般的なデバイスよりも多くのデータを取得できるべきであり、膨大なデータであっても高い精度の行動の識別が行えることが理想である。

## § 1.2 本研究の目的

本研究は、従来よりも多くの情報収集を可能とした環境・生体ログシステムの開発、その情報をもとにした行動パターンの類似性やイベント性を検出・考察することを目的とする。一般的に使用されているウェアラブルデバイスやアプリケーションについて述べ、問題点を考察したうえでシステムの開発を行う。開発するシステムは無線通信から自動でのデータの蓄積を行うことにより、ユーザーへかかる負担を少なくしている。また、システムの開発にあたって、マイコンと多くのセンサを使用している。取得したデータはリアルタイムでの管理を行えるように、ブラウザ上で折れ線グラフのリアルタイムプロットを行えるシステムも加えて開発する。

行動パターンの類似性やイベント性の検出には従来手法によるクラスタリングを行う。従来手法によるクラスタリングではテキストデータが用いられているが本研究で扱うデータは数値データであるため、テキストではなく数値のクラスタリング結果を示す。示す結果は、自己組織化マップ (Self Organizing Maps : SOM)、階層的クラスター分析、多次元尺度構成法 (Multi Dimensional Scaling : MDS)、対応分析、共起ネットワークを行い、読み取りを行うことで環境・生体ログデータの類似性やイベント性を考察する。

従来よりも優れた解析手法の開発を目的として、粒子群最適化 (Particle Swarm Optimization : PSO) に勾配・制約を考慮したハイブリッド的な応用手法を定式化するとともに有効性を示す。またその手法を用いた PSO のクラスタリング手法を提案する。

また PSO クラスタリングの比較対象として、自己組織化マップ (Self Organizing Maps : SOM)、階層的クラスター分析、多次元尺度構成法 (Multi Dimensional Scaling : MDS)、対応分析、共起ネットワークを行い、読み取りを行うことでライフログデータの類似性やイベント性を考察したうえで、提案手法のアルゴリズムを示す。

## § 1.3 本論文の概要

本論文は次のように構成される。

**第1章：本章** 第1章では、本研究の概要と目的について説明した。

**第2章** 第2章では、現状のライフログ・ライフログアプリケーションの問題や特徴について説明する。また、データの取得に用いるデバイスやセンサについて説明する。

**第3章** 第3章では、行動識別についての研究や、行動識別のための分析手法について説明する。また、分析から考えられる類似性やイベント性について説明する。

**第4章** 第4章では、一般的な PSO に勾配情報を組み込んだハイブリッドな PSO についての定式化について述べる。また PSO を用いたクラスタリングについて解説し、提案手法のアルゴリズムを説明する。

**第5章** 第5章では、まとめと今後の課題を述べる。

## ライフログと各種センサ

### § 2.1 現状のライフログ

ライフログ (lifelog) とは、人間の活動 (life) の記録 (log) であり、センサーなどで個人の活動に関するログを取得する行為が、ライフログの語源と考えられている [7]。本研究では、この行為をライフログとし、個人の行動履歴に基づいて生み出されるビッグデータのことをライフログデータと呼ぶこととする。また、ライフログに関して、長時間の記録や膨大なデータが必要という定義はない。

ライフログデータを取得・活用できるアプリケーションとして、iphone の専用アプリ「ヘルスケア<sup>1</sup>」がある (図 2.1 参照)。このアプリケーションはアクティビティ<sup>2</sup> (図 2.2 参照) から、どれほど歩いたかという歩数や消費エネルギー等のライフログデータを取得し、ユーザ自身が健康管理に生かすことができる。また、自動で位置情報をマップにマッピングできる「マッピング - GPS ログまとめて全部記録<sup>3</sup>」 (図 2.3 参照) や、手動でマッピングする「Swarm<sup>4</sup>」 (図 2.4 参照) というアプリケーションがある。このアプリケーションは行動の記録を取ることができるために、日々の生活や旅行の記録として使用できる。上記のアプリケーションは GPS のアクセス許可が必要であり、上記以外のライフログアプリケーションも GPS を必要とすることが多い。

ライフログに関する既存研究として、スマートフォンから得られる位置情報履歴や写真撮影履歴、ツイートを使用したライフログデータから行動特徴抽出・イベント検出を行う研究が行われている [8] [9]。取得したライフログデータの解析を行うことで、ユーザー自身の健康管理や学習 [10] に生かすだけではなく、ビジネスとしてターゲティング広告に生かすこともできる。ライフログは、様々な視点からライフログデータの比較を行うことで、個人や社会に利用できるという価値があると考えられる。

しかし、現状のライフログには、大きくわけて二つの問題があると考えられる。一つ目

<sup>1</sup><https://www.apple.com/jp/ios/health/>

<sup>2</sup><https://appllio.com/how-to-use-iphone-healthcare>

<sup>3</sup><https://play.google.com/store/apps/details?id=org.liteapp.mat2>

<sup>4</sup><https://play.google.com/store/apps/details?id=com.foursquare.robin>



図 2.1: ヘルスケア<sup>1</sup>



図 2.2: アクティビティ<sup>2</sup>

はライフログの多様化問題、二つ目はライフログの煩雑問題である。

### ライフログの多様化問題

ライフログを扱うサービスとしてインターネット上には多種多様なアプリケーションが登場し、様々な種類のライフログをWeb上で確認できる[?]. ユーザーの考え方や気持ちを記録するブログやTwitter<sup>5</sup>、写真を記録するFlickr<sup>6</sup>、三度の食事を記録するFoodLog<sup>7</sup>、体や運動のデータを記録するからだログ<sup>8</sup>、携帯電話で写真やバーコード、睡眠時間を記録するねむログ<sup>9</sup>などが存在する。このように一つにライフログといつても様々な形で表すことができ、それぞれによって用いるデータは全く違うものになっている。上記のようにライフログが多種多様になっている一方で、多くのアプリケーションを並行して使用させることはユーザーへの負担となることも考えられる。またアプリケーションが増えることによりユーザーが扱う情報量も増加し、すべての情報を正確に管理することが厳しくなってしまう。

### ライフログの煩雑問題

ライフログアプリケーションの中には、意識的にライフログデータを取得しなければならないアプリケーションが存在する。このようなアプリケーションはライフログのために、ユーザーが自ら位置情報をマッピングしたり、食事風景の写真をとることを意識しなくてはならない[12]。ユーザーの主観的なライフログデータを取得できるが、ライフログデータを取得するのに手間がかかってしまうという問題を引き起こす。

<sup>5</sup><https://twitter.com/>

<sup>6</sup><https://www.flickr.com/>

<sup>7</sup><https://www.foodlog.jp/>

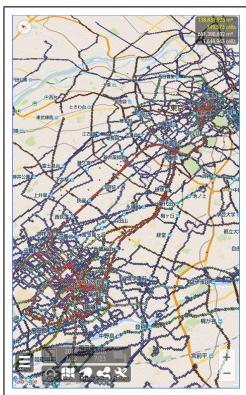


図 2.3: マッピング-GPS ログまとめて全部記録<sup>3</sup>

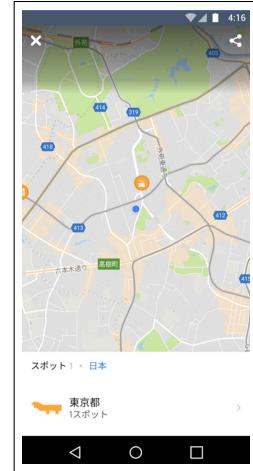


図 2.4: Swarm<sup>4</sup>

また、ライフログの個人情報問題に関して、株式会社NTTデータ経営研究所が2016年に10代から60代の男女1059人を対象として実施した「パーソナルデータに関する一般消費者の意識調査[13]」という調査がある。この調査において、「企業のマーケティング等の利用目的にて、パーソナルデータを企業に提供しても良いと思うデータの条件」において、金銭や商品を受け取ることができたり、個人が特定できない状態でも、どのような条件であっても位置情報は提供したくないという人が66.2%であり、過半数以上を占めていることがわかっている。

ライフログの多様化問題、煩雑問題という二つの問題に対し、ライフログデータを収集する上で重要なことは、一つのアプリケーションで多くのデータを取得し、ユーザーにサービスとして提示するまでの処理を手間をかけずに無意識に行うことであると考える。また示す結果に誤った情報をはじめとしたノイズが含まれてはいけない。よって画期的な手法によるライフログを正確にクラスタリングすることが重要であると考えている。

## § 2.2 各種センサとマイコンの概要

近年、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスが急速に普及している。その次のデバイスとして期待されているものがウェアラブルデバイスである。ウェアラブルデバイスとは、体に装着して利用するコンピュータデバイスの総称であり、代表的なものとして、一般で使われているAppleの「Apple Watch<sup>10</sup>」(図2.5参照)や、医療や介護の現場で用いられているEMC Healthcareの「CALM-M<sup>11</sup>」(図2.6参照)などが挙げられる。

このようなウェアラブルデバイスは日常的な場面から、医療や介護といった幅広い場面で用いられている。また、ウェアラブルデバイスから得られる使用者の生体情報や個人情報は行動認識技術に活かされている。よって行動認識技術の応用範囲はとても広く、軍事(兵

<sup>8</sup><https://help.goo.ne.jp/goo/g108/>

<sup>9</sup><https://nemulog.co.jp/>

<sup>10</sup><https://www.apple.com/jp/watch/>

<sup>11</sup><https://prttimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000024862.html>



図 2.5: Apple Watch<sup>10</sup>



図 2.6: CALM-M<sup>11</sup>

隊, 整備士), 業務(営業マン, 消防, 警察, 飲食店, コンビニ, 警備, 介護), 民生(情報開示, 記憶補助, コミュニケーション, エンタテイメント, 教育)などの場面での利用を考えることができる [?].

さらに, 今ではほとんどの人が持ち歩いていると言えるスマートフォンにも多くのセンサが搭載<sup>12</sup>されており, スマートフォンのアプリケーションを介することにより, 特に必要な操作や手間なく, 生体情報をはじめとした情報を得てライフレグととして蓄積し, それらをユーザー自身で管理・確認することができる.

本研究では, Arduino, LLC 社の「Arduino UNO」((図 2.7 参照) や, Raspberry Pi Foundation による「Raspberrypi3.0」(図 2.8 参照) などのマイコンと, 脈拍や体温などを測る生体センサや, 気温, 湿度などを測る環境センサ, これらをウェアラブルデバイスとして使用する. 使用する理由としては, Arduino や Raspberrypi を用いることにより扱うことができるセンサが幅広く, センサの追加や撤去などの調整が容易に行えるためである.

生体情報として用いるセンサは, 体温<sup>13</sup>, 心拍<sup>14</sup>, GSR(Galvanic Skin Response)<sup>15</sup>である. 体温や心拍は医療や介護の現場で用いられており, ユーザーの体調管理に欠かせない. GSR は客観的に人間の心理を評価をするなどできるので感情を分析できる特徴を持つ.

また加速度<sup>16</sup>, 温湿度気圧<sup>17</sup>, 照度<sup>18</sup>, GPS<sup>19</sup>, 人感<sup>20</sup>といった環境情報センサを用いる. これらのセンサと生体センサを組み合わせ, 周囲の情報を取り入れることにより, ユーザーがどんな状況でどんな行動をしているか, どこでどんな行動をしているかというように, より細かい情報を得ることができる. また加速度を活かすことにより, 姿勢推定や, 歩行・転倒の検出など行動検知が可能となる [?] [?]. また位置情報は Google 社による「Google maps<sup>21</sup>」(図 2.9 参照) を代表として歩行, 運転時の目的へのナビゲートと日常に利便性をもたらしたり, 災害などの緊急時の行方不明者や徘徊老人の検索に用いられることがある. 人感センサは赤外線照度センサとも言われており, 周囲の人肌以上のものを感知すること

<sup>12</sup><https://garumax.com/smartphone-sensor>

<sup>13</sup><http://naritaku.hatenablog.com/entry/2016/04/05/230649>

<sup>14</sup><http://myct.jp>

<sup>15</sup>[http://wiki.seeedstudio.com/Grove-GSR\\_Sensor/](http://wiki.seeedstudio.com/Grove-GSR_Sensor/)

<sup>16</sup><http://akizukidenshi.com/catalog/g/gK-13010/>



図 2.7: Arduino UNO



図 2.8: Raspberry Pi 3.0



図 2.9: Google maps<sup>21</sup>

ができるので、ユーザーが他人と接しているかどうかを判別することができる [?].

ここまで挙げたセンサをまとめると以下のようになる.

取得するデータ一覧

- ・生体センサ  
体温, 心拍, GSR
- ・環境センサ  
GPS(緯度, 経度, 海拔), 温度, 湿度, 気圧, 照度, 人感, 加速度(3軸), 角速度(3軸), 磁気コンパス(3軸)

上記のセンサを Arduino を用いて計測する. Arduino に計 8 つのセンサを接続し, 20 種類のデータを計測できる環境を作成する (Arduino とセンサの画像).

### § 2.3 無線によるセンサデータ収集

ライフログを取得をするにあたって, 2.2 節で挙げたマイコン (Arduino, Raspberry Pi) とセンサ類を組み合わせて独自のライフログの測定環境を開発する. ライフログを取得する

<sup>17</sup>[https://github.com/SWITCHSCIENCE/BME280/blob/master/Arduino/BME280\\_I2C/BME280\\_I2C.ino](https://github.com/SWITCHSCIENCE/BME280/blob/master/Arduino/BME280_I2C/BME280_I2C.ino)  
<sup>18</sup>[jkoba.net/prototyping/arduino/cds\\_practice.html](http://jkoba.net/prototyping/arduino/cds_practice.html)

<sup>19</sup>[https://www.petitmonte.com/robot/howto\\_gysfdmaxb.html](http://www.petitmonte.com/robot/howto_gysfdmaxb.html)

<sup>20</sup>[http://tech.blog.surbiton.jp/arduino\\_motion\\_sensor\\_se-10/](http://tech.blog.surbiton.jp/arduino_motion_sensor_se-10/)

<sup>21</sup><https://www.google.co.jp/maps/?hl=ja>



図 2.10: Tera term<sup>22</sup>

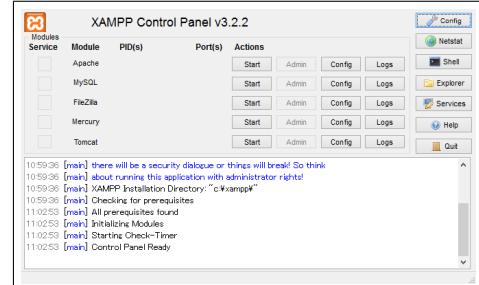


図 2.11: XAMPP<sup>23</sup>

にはユーザーに手間がかからずスムーズかつ無線通信を利用した IoT の側面も考慮した環境を作成する必要がある。

手法としては Arduino に必要なセンサを繋ぎ、さらに Arduino と Raspberrypi を USB ケーブルで有線接続し、Arduino と Raspberrypi でシリアル通信を行う。これにより Arduino で取得したログが Raspberrypi に送信される。Raspberrypi には Arduino と違い Wifi 環境が整っているので無線通信を行うことができる、Arduino から送られてきたログを PC に無線通信で送り、PC 内でそのログを蓄積する。

Raspberrypi と PC の接続は寺西高氏によって開発された Tera term<sup>22</sup> という Windows 上で動作する多機能端末を用いる。Windouw から Linux などにリモート接続をしようとするときによく用いられている。Tera term を起動すると IP アドレスを指定して任意の端末とリモート接続できる(図 2.10 参照)。リモート接続を終え、Raspberrypi 上で Python のプログラムを作成し、Arduino から送信されたログを PC に送信する。

Raspberrypi からログを送信するにあたって、XAMPP<sup>23</sup> という完全無償の MySQL, PHP および Perl を含んだ、Apache ディストリビューションを利用する(図 2.11 参照)。これを用いてサーバーとして PC 上で Apache でローカルサーバーを作成する。これで PHP の開発環境を容易に使用することができる。

しかし、この手法では Arduino と Raspberrypi の二つのマイコンを使用しなければならないので、日常の情報を集めることが目的のログではユーザーに対して負担がかかるてしまう。なのでログを測定する端末はよりコンパクトでスペースを取らないものの方が良いと考えられる。

そこで無線通信の役割を担っている Raspberrypi に代わって Arduino 上で使用することができる Wifi モジュール ESP-WROOM-02<sup>24</sup> を使用する。この Wifi モジュールを用いることにより Arduino に欠けていた無線通信機能を補うことができるとともに、Raspberrypi を使用せずともよくなるので、マイコン一個分のスペースを削減することができ、小型・軽量化することができる。

Wifi モジュールを用いる場合においてのログの処理は Raspberrypi の場合と同様に、PC 上で作成したローカルサーバーにログを送信する。

また 2.2 よりセンサの数を合計すると 20 次元のデータとなる。

<sup>22</sup><https://ja.osdn.net/projects/ttssh2/>

<sup>23</sup><https://www.apachefriends.org/jp/index.html>

<sup>24</sup><https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/B01C8ANPYW/vlsiprograma-22/>

環境・生体ログはPC上に蓄積することができるが、データとして蓄積するだけでは意味が無い。ユーザーの情報を取得し、データをリアルタイムでサービスとして反映させることができ、実際のアプリケーションでは必要である。今回はユーザーが自身の情報を視認できるように環境・生体ログの簡易的な可視化を行う。

ローカルサーバー状のデータをリアルタイムで送信、表示させるためにSocket.IO<sup>25</sup>による通信手法を用いる。Socket.IO<sup>25</sup>とはweb上においてリアルタイムの通信を実現する技術の一つである。これを用いて送信されてきたデータをhtmlで作成したページに送信する。ウェブサイトに送るためにnode.js<sup>26</sup>をインストールしたPCで以下のプログラムを実行しサーバーを立てる。

```
// サーバー側
var http      = require('http');
var socketio = require('socket.io');
var fs        = require('fs');
var server    = http.createServer(function(req, res) {
  res.writeHead(200, {'Content-Type': 'text/html'});
  res.end(fs.readFileSync(__dirname + '/index.html', 'utf-8'));
}).listen(3000);

var io = socketio.listen(server);

io.sockets.on('connection', function(socket) {
  console.log('connection');
  socket.on('bio_csv', function(msg){socket.broadcast.emit('q',msg)}); // 送信
  socket.on('bio2_csv', function(msg){socket.broadcast.emit('w',msg)}); // 受信
});
```

このサーバーを経由してページに送信し、その結果は適当なブラウザ上で確認できる。以下にその結果の例を示す(図2.12参照)。この例では送信しているデータは体温と心拍である。

データの取得からブラウザ上での可視化までのデータフローを図にまとめる(図2.13参照)。ArduinoからXAMPP<sup>23</sup>のApacheで立てたローカルサーバーを用いてPHPファイルへ、そしてaccept.jsに送信している。accept.jsでシステムを2秒程度停止させることによりプログラムが正しく動作する。2秒の停止がない場合では正しく動作しない。その後PC上で立てたサーバーからindex.htmlというファイルに送信し、ブラウザ上でデータが確認できる。データの蓄積はPHPファイル上でcsv形式で保存を行っている。

htmlでデータをグラフ化しつつリアルタイムプロットを行うにはEpoch.js<sup>27</sup>を用いた。選んだメリットとしては、リアルタイム表示に特化していて設定が簡素であるからである。以上の手法によりArduinoとセンサで取得したデータをライログとして蓄積、表示できるようになった。

---

<sup>25</sup><https://ics.media/entry/4320>

<sup>26</sup><https://nodejs.org/ja/>

<sup>27</sup><https://qiita.com/okoppe8/items/d8d8bc4e68b1da4a0a36>

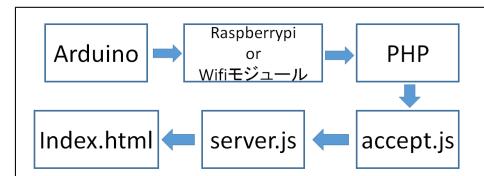
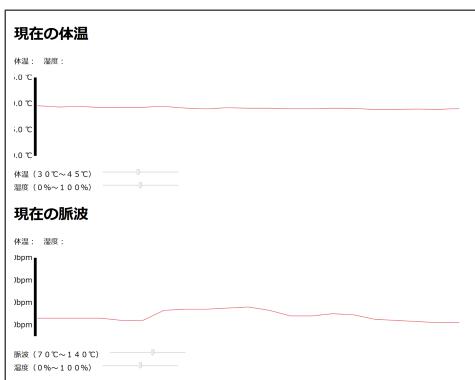


図 2.13: データフロー<sup>26</sup>

図 2.12: データの可視化<sup>25</sup>

## センサデータからの行動識別

### § 3.1 行動識別

携帯電話やウェアラブルデバイスを用いて、ユーザーが今何を行っているかという行動をライフログデータとして取得し、取得したライフログデータの解析から行動を認識することを行動認識や行動識別という。本研究では、行動識別と呼ぶことにする。

既存研究には、携帯電話の加速度センサやGPSを用いてライフログデータを取得し、走行や歩行しているなどの行動識別を行う研究 [18] や、ウェアラブルデバイスの加速度センサやGPSを利用する事で人の行うさまざまな行動を取得し、行動識別を行う研究 [19] がある。しかし、本を読んでいることであったり、料理をしていることなどの細かい動作をライフログデータとして取得することは難しい。細かい動作をライフログに組み合わせるため、手動で動作の開始・終了を記録するアプリケーション「行動の記録 (LifeLog)<sup>22</sup>(図 3.1 参照)」や、机上に設置した Kinect<sup>TM</sup>(図 3.2 参照)を用いて机上の細かい動作を認識する研究がある。しかし、この研究は机上に限っているため屋外や机上以外の行動は認識できない [20]。なお、Kinect<sup>TM</sup> は 2017 年 10 月 25 日に生産終了が公表されている。

本研究では 2 章で述べたように Arduino とセンサ類を使用して、細かい行動をライフログデータとして取得する。ユーザーの生体情報、周囲の環境情報、位置情報を取得することにより、ユーザーの体調管理やどのような行動をしているか、周囲が厚いのか寒いのか、どこにいるかなどを把握することができる。生体データと加速度データを用いての行動識別は [?] で行われているが、本研究では 20 次元によるデータを扱うのでこういった従来法より、より多種類の行動識別を行うことができると考えられる。

### § 3.2 行動識別のための分析手法

本研究ではいくつかの解析手法を用いて、一定時間内の取得データを視覚的に表し、行動識別を行う。そのために、多変量解析である SOM、階層的クラスター分析、MDS、対応

<sup>22</sup><https://play.google.com/store/apps/details?id=com.yoko.tama.workLog&hl=ja>



図 3.1: 行動の記録 (LifeLog)<sup>10</sup>



図 3.2: Kinect<sup>TM</sup>

分析, 共起ネットワークを用いてテキストデータの可視化を行う.

多変量解析を行うツールとして KH Coder<sup>23</sup>を使用する. KH Coder とは, テキスト型データの計量的な内容分析, もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである [22]. 無償でウェブサイトから入手でき, すべての機能をマウス操作で利用できる. また, どんな言葉が多く出現していたのかを頻度表から見ることができたり, SOM, 共起ネットワークなどの多変量解析を行ったりできる [23]. KH Coder を用いて行われた研究としては, アンケートの自由回答項目・新聞記事・インタビューデータなどさまざまなデータを分析した事例がある [24]. 本研究では Version 3.Alpha.11 を使用する.

データは 2 節で述べたセンサから取得する数値データを扱う. KH Coder はテキスト型データに対しての分析, もしくはテキストマイニングを目的としているため 2 節で述べたようなセンサの数値データを入力としても数値データが読み取られない. なので Arduino から取得したデータを分析を掛ける前に記録させておく必要がある. KH Coder の語の取捨選択より強制抽出する語の指定を行う. 図の語は全体の一部で緯度データを指定している部分である(図).

KH Coder をダウンロードする際に取得できる KH Coder3 リファレンス・マニュアルによると, KH Coder を使用した多変量解析には, まず対象のテキストファイル (もしくはエクセルファイル) を読み込む事から始める. 今回はセンサデータを取得する際に作成した CSV ファイルから読み込む. 読み込む CSV ファイルに事前に手動で h1 タグや h2 タグという見出しタグを設定することで, 見出しごとの解析も可能である. 今回はデータを取得する際にデータの先頭にそれぞれ文字をつけてそれぞれの数値との見分けがしやすくなるようにした(緯度なら LON, 経度なら LAT). そのデータの一覧を示す(表) 次に, 前処理として, POS Tagger<sup>25</sup>を使用して自然言語処理を行う(表 3.1 参照). 前処理を行うことで, 多変量解析に使用する「各文書に, それぞれの語が何度出現していたのかという集計表」である「文書×抽出語」表 [25](表 3.2 参照)を出力することができる. h1 から h5 とい

<sup>23</sup><http://khc.sourceforge.net/>

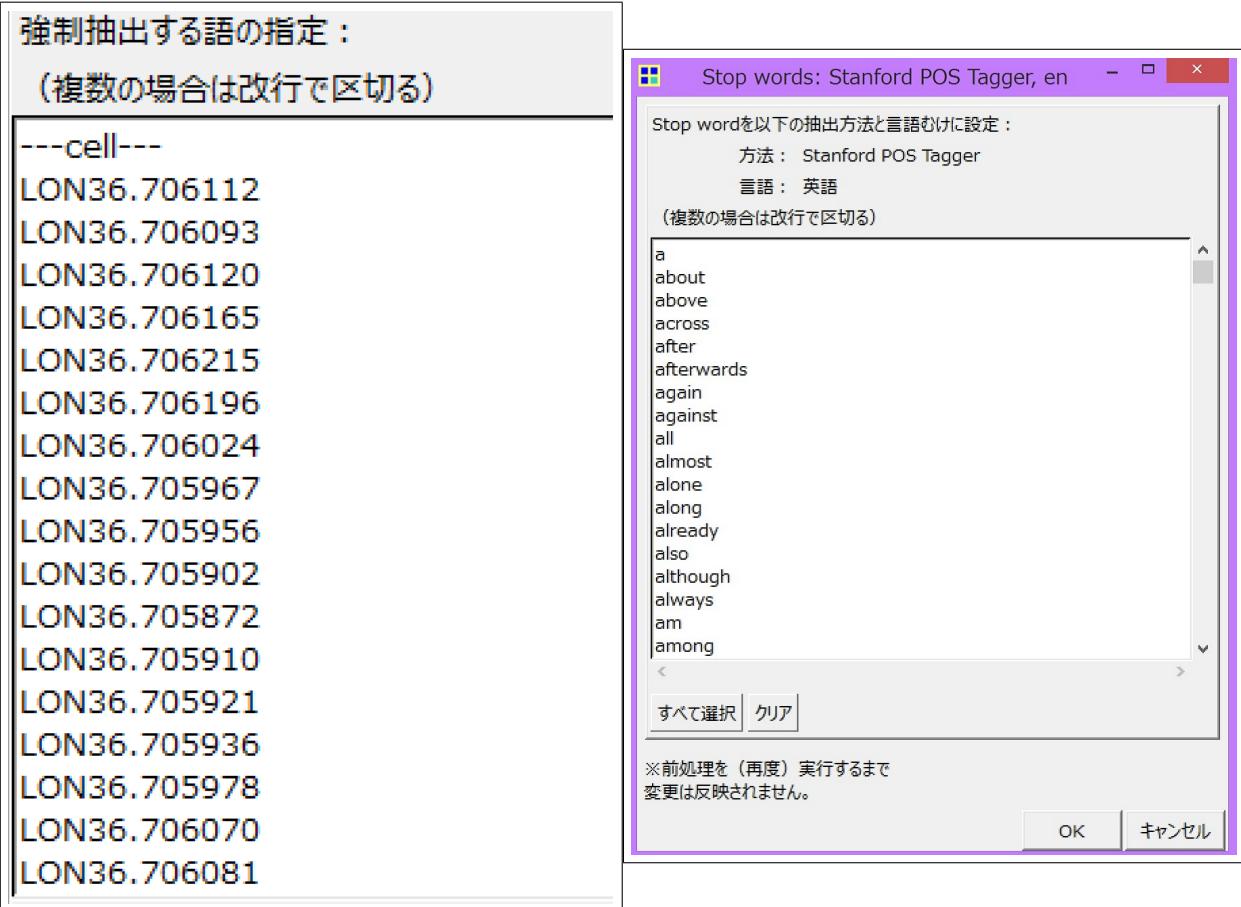


図 3.4: Stop words の一部<sup>24</sup>

図 3.3: 強制抽出する語の指定の一部

うのは見出し番号であり, h1 タグや h2 タグが存在すると 1 増加する. dan は段落番号で, bun は文番号である. id は文書の通し番号で, リセットされることは無い. length\_c は文書の長さを文字数で表し, length\_w は文書の長さを語数で表したものである.

まず, ライフログデータの内容解析のため, 階層的クラスター分析, MDS, 対応分析, 共起ネットワークを行う. この時テキストデータは, 抽出語の中でも, 多く出現する 29 語の抽出語を用いる.

階層的クラスター分析は, 抽出語の最も似ている組み合わせから順番にクラスターにしていく方法であり, デンドログラムを表示する [26]. 指定されたクラスター数に全体を分割し, その結果を色分けによって表示する. なお, KH Coder では, デフォルトの Auto では, 抽出語数の平方根を四捨五入したものを用いている [27]. 1 つのクラスターには関連性が高い抽出語が集まっているため, クラスターごとに集まっている抽出語を調べることでテキストデータ全体における文書の傾向や特徴を知ることができる.

階層的クラスター分析の作成方法は, まず抽出語として A, B, C, D があったとする. この時抽出語の中で最も距離の近い組み合わせを A と B とし, A と B をくくり, 2 点の代表点を求める. 次に, AB の重心, C, D の 3 点で, 最も距離の近い組み合わせを見つける. このとき C と D が最も近いとすると, C と D をくくる. このように繰り返していくことで,

<sup>25</sup><https://nlp.stanford.edu/software/tagger.html>

表 3.1: 取得したセンサの数値データの一部その 1

緯度	経度	海拔	気温	湿度	気圧	照度	人感	加速度 x
LON36.706112	LAT137.096690	HEI29.8	T28.77	HUM31.97	1	26	5	0
LON36.706093	LAT137.096620	HEI29.7	T28.84	HUM31.54	2	684	163	0
LON36.706120	LAT137.096540	HEI29.4	T28.88	HUM31.67	3	876	213	0
LON36.706165	LAT137.096540	HEI28.8	T28.91	HUM33.01	4	666	163	0
LON36.706215	LAT137.096540	HEI27.7	T28.84	HUM32.97	5	344	88	0
LON36.706215	LAT137.096620	HEI26.2	T28.90	HUM31.81	6	469	119	0
LON36.706215	LAT137.096630	HEI24.2	T28.91	HUM32.35	7	470	131	0
LON36.706196	LAT137.096630	HEI21.7	T28.92	HUM32.30	8	587	148	0
LON36.706196	LAT137.096620	HEI18.9	T28.89	HUM33.02	9	409	115	0

表 3.2: 取得したセンサの数値データの一部その 2

加速度 z	角速度 x	角速度 y	角速度 z	磁気 x	磁気 y	磁気 z	体温	心拍	GSR
0	0	0	0	1	1	26	5	0	0
0	0	0	0	2	2	684	163	0	0
0	0	0	0	3	3	876	213	0	0
0	0	0	0	4	4	666	163	0	0
0	0	0	0	5	5	344	88	0	0
0	0	0	0	6	6	469	119	0	0
0	0	0	0	7	7	470	131	0	0
0	0	0	0	8	8	587	148	0	0
0	0	0	0	9	9	409	115	0	0

デンドログラムを作成する [26] [28].

KH Coder3 リファレンス・マニュアルによると、クラスター間の距離測定方法として、KH Coder ではウォード法を使用している。2つのクラスター X, Y を結合したと仮定したとき、それにより移動したクラスターの重心とクラスター内の各サンプルとの距離の2乗和  $L(X \cup Y)$  と、もともとの2つのクラスター内での重心とそれぞれのサンプルとの距離の2乗和  $L(X)$ ,  $L(Y)$  の差が最小となるようなクラスターどうしを結合する手法である。ウォード法は、計算量は多いが分類感度がいいいため用いられることが多く、ウォード法は一つのクラスターに抽出語が順に吸収され類似するクラスターが形成される鏡効果が起こりにくいという強みがある [29] [30].

$$\Delta = L(X \cup Y) - L(X) - L(Y) \quad (3.1)$$

クラスター分析の結果を図 3.5 に示す。この時クラスター数を Auto にしたためクラスター数は 5 となる。併合標準（図 3.6 参照）からクラスター数が 5 であることは妥当だと考えられるためクラスター数は 5 とした。クラスター分析から、最も多く出現している ANNE という単語やほかにも多く人名と思われる単語があることからある程度主要人物が予想できる。また、あるクラスターに school という単語と Avonlea という単語がある点から、school

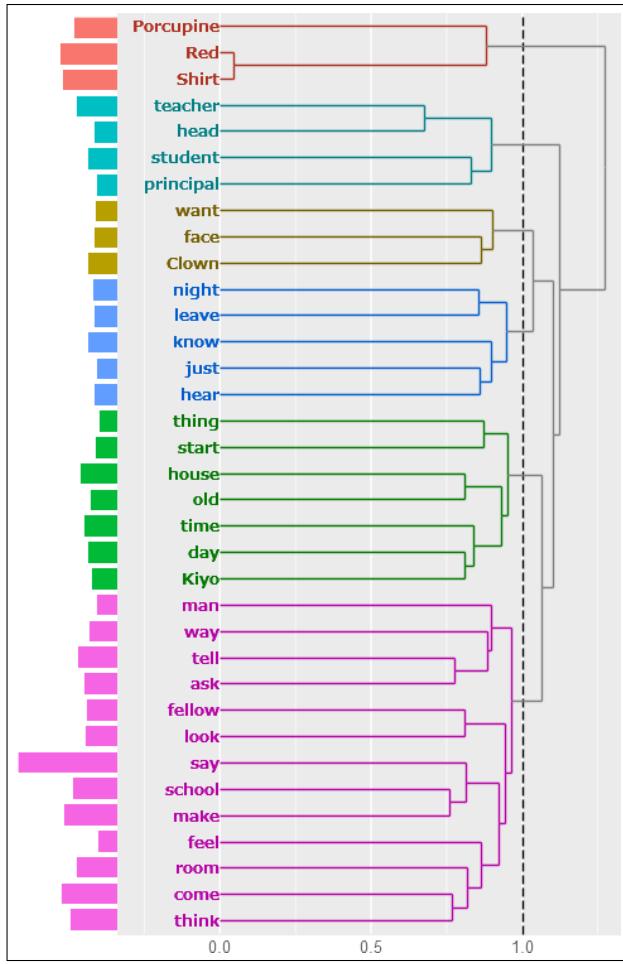


図 3.5: センサデータから作成したクラスター分析

は Avonlea という地名のところにある、または深く関係していることが分かる。クラスター内やクラスター同士の比較からデータ内で重要な語の関係を推測できる。

MDS は、抽出語間の関連性や類似性の強さをマップ上の点と点の距離に置き換えて、相対的な関係性を視覚化する手法である [31]。KH Coder では MDS の中でも最も広く利用されてきた Kruskal の非計量 MDS を使用している [32]。また、語と語の関連を見るために Jaccard 係数を使用している。Jaccard 係数とは二文章間の類似度であり、「語 A を含む」かつ「語 B を含む」文書の数を、「語 A を含む」または「語 B を含む」どちらかでも当てはまる文書の数で割った係数である [33]。MDS の結果は、相対的な位置関係だけを表わしているため軸の方向性に意味はない。

$$Jaccard \text{ 係数} = \frac{\text{語 A と語 B を含む文書}}{\text{語 A もしくは語 B を含む文書}} \quad (3.2)$$

図 3.7 は赤毛のアンデータから出力した MDS である。クラスター分析を参考にし、クラスター数は 5 に設定した。この結果、目立つものはクラスター 03,04 であり、01,02,05 と比べて他のクラスターとそれほど離れてないことから、データの中で中心的なクラスター・抽出語であることがわかる。クラスター 02 と 05 のように離れて配置されるクラスターもあ

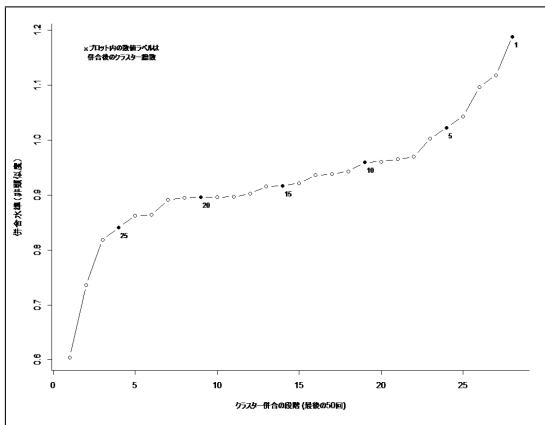


図 3.6: クラスター分析の併合標準

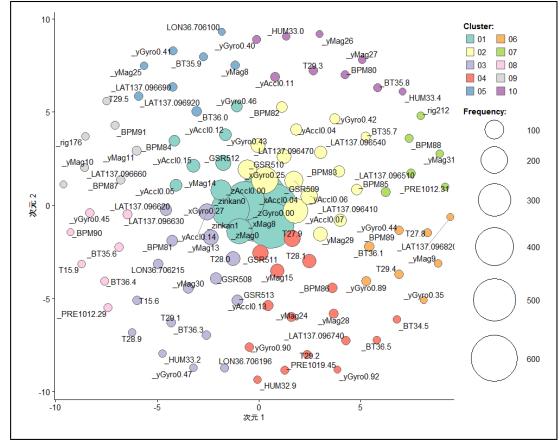


図 3.7: センサデータから作成した MDS

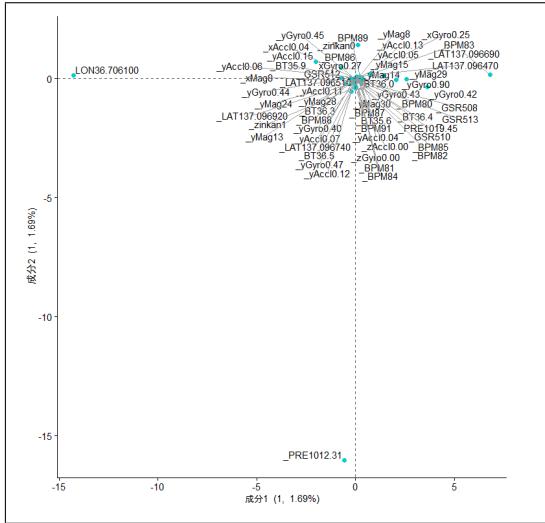


図 3.8: センサデータから作成した対応分析

り、関係性の低いクラスター・抽出語であることがわかる。

対応分析は、単純な2次元表や多重表の行と列間の対応する測定値を分析する探索的データ解析の手法であり、分析結果として、2次元のマップが表示される[34]。このマップで近くに位置しているものは、相対的に関連が強いということを示し、遠くに位置しているものは関連が弱いということになる。また、対応分析では、これといって特徴のない語が原点付近に密集することが多い。この時軸に表示されている数字は固有値と寄与率である。

図 3.8 は赤毛のアンデータより出力した対応分析である。この対応分析から、head や girl や MARILLA という単語は特徴的ではなく、データ全体によく出現することがわかる。一方で、Jane や evening は原点から遠く離れているため、特徴的であることがわかる。

### § 3.3 類似性・イベント性

本研究では、ライログデータの内容解析のため、階層的クラスター分析、MDS、対応分析、共起ネットワークを行った後、データの時系列を SOM を用いて解析を行う。SOM を用いて、テキストデータの時系列を可視化することでテキストデータの類似性を検出する。

SOM とは、ヘルシンキ大学のコホーネン教授により 1981 年頃に発表された、教師なし学習を行なうニューラルネットワークの代表例と言える解析手法である [39]。ニューラルネットワークとは、脳機能に見られるいくつかの特性を計算機上のシミュレーションによって表現することを目指した数学モデルである。つまり、人間が無意識にやっていることを機械にやらせるということである。

SOM は図??に示すように入力層と出力層の 2 つに分かれて競合学習を行う [40] [41]。入力層のニューロンが複数個あるが、各々のニューロンがそれぞれの次元に対応した出力を行っていると考える。入力データベクトルと呼ばれる入力層から出力層への入力を  $x$  と定義し、出力層のニューロンと入力層のそれぞれのニューロンとの結合強度は総称して参照ベクトルと呼ばれ、 $i$  を出力層のニューロンの番号とすると、 $m_i$  で表される。まず初めに、 $m_i$  の初期化を行い、入力データベクトル  $x$  を選び、入力データベクトルと各ニューロンの参照ベクトルとのユークリッド距離で出力層のニューロンを競合させる。勝者ニューロンを  $c$  とすると、式 3.3 で表される。 $\arg \min f(a)$  は  $f(a)$  を最小にする  $a$  の集合であり、下側に変数がとる値の範囲を書くことが多い。

$$c = \arg \min_i \{ \|x - m_i\| \} \quad (3.3)$$

次に、勝者ニューロンと勝者ニューロンに近いニューロンは自らの参照ベクトルと入力データベクトルを近づける学習を行うため、参照ベクトルを同様に更新させる。この時、 $h_{ci}$  は勝者ニューロンとの距離によりガウス関数で減衰する係数である。

$$m_i(t+1) = m_i(t) + h_{ci}(t) \cdot \{x(t) - m_i(t)\} \quad (3.4)$$

$$h_{ci} = \alpha(t) \cdot \exp \frac{-\|r_c - r_i\|^2}{2\sigma^2(t)} \quad (3.5)$$

また、SOM 作成過程ではユークリッド距離を利用している。また、KH Coder3 リファレンス・マニュアルによると、文書の長さのばらつきに左右されない形で計算を行うために、文書中における語の出現回数をそのまま使うのではなく、1,000 語あたりの出現回数に調整したものを計算に使用している。

KH Coder3 リファレンス・マニュアルによると、KH Coder の SOM の学習は、大まかな順序づけを行う段階と、微調整を行う収束段階の 2 段階で行われる。KH Coder では、1 段階目が 1,000、2 段階目が「全体のノード数を 500 倍した数値」に設定されており、全体のノード数が 40 の場合は 200,000 回である。また、各ノードがもつベクトルをウォード法で分類してクラスター化する、クラスター数は任意に決定できるため、クラスター分析などの結果からクラスター数を調整する。

本研究ではこの KH Coder はデータの前処理段階に使用し、実際の SOM 作成には、データ解析・グラフィックス環境を備えたオープンソースのソフトウェアである R を使用する [42]。

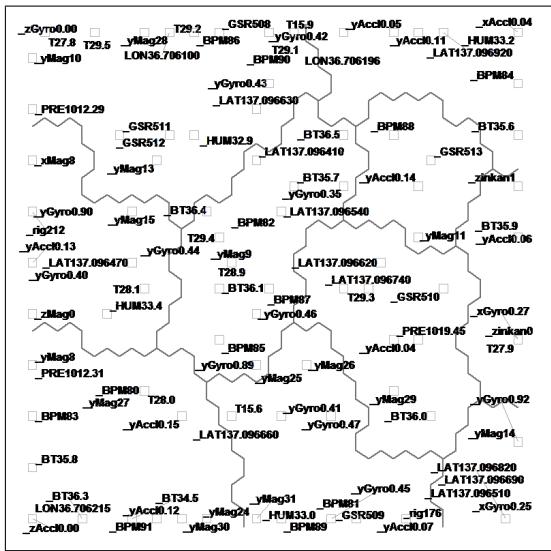


図 3.9: センサデータから KH Coder で作成した SOM

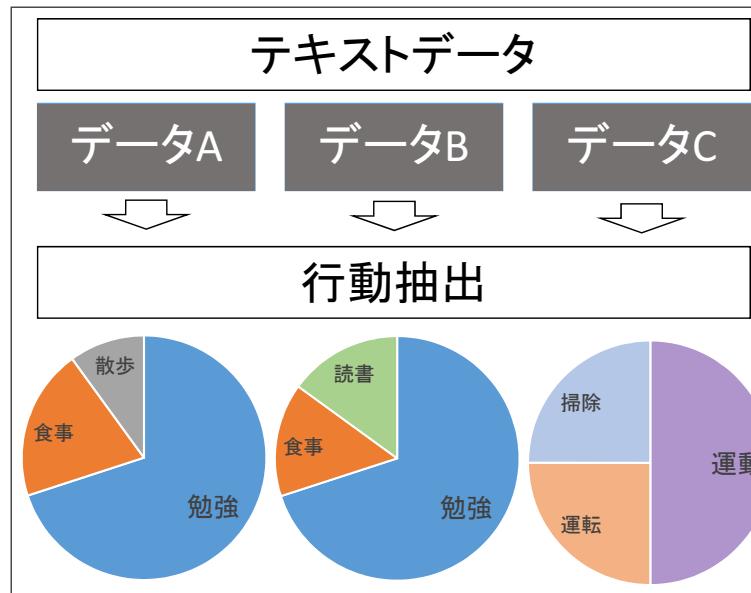


図 3.10: データ A, データ B, データ C の例

KH Coder で出力できる SOM (図 3.9 参照) は抽出語どうしの関係を示すものとなっているため、今回のログデータの解析に用いることには向かないためである。

KH Coder で出力できる SOM の R ファイルを基にソースコードを書き換え, R で出力を行う. 出力した SOM が図??になる. この時 SOM 上の数字は id であり, 文書同士の関係が表されている. 学習回数は 1 段階目が 1,000, 2 段階目が 200,000 となっている. また, クラスター数は 6 とした.

図??より、文書どうしにまとまりは少ないことがわかる。これは文書数が多いことと、対象としているデータが文学作品であることから似たような文章が並ぶことが少ないと考えられる。

KH Coder と R を用いて ライフログデータであるテキストデータの多変量解析を行い、解析結果の読み取り・比較を行うことで一定時間内の行動識別を行い、ライフログデータの類似性やイベント性を検出できると考える。

本研究では、ログデータの類似性とは、多変量解析によるクラスターの分かれ方やクラスターを構成する抽出語から導き出せる行動や、プロットの関係性、SOM であらわされる時系列が類似している場合類似性があると考える。つまり同じ行動を行っていることや、その行動がデータ内で占める割合が似ていることが類似性のあるログデータだと解釈する。また、ユーザー自身の複数のログデータの中で類似性のあるログデータが多ければ、そのログデータは平常日を表していると考えられる。一方でログデータの類似性ではなく、ログデータから特徴的なイベント性を検出した場合、イベント日であることを検出できたり、平常日とは違うという危険を察知したりできる。

階層的クラスター分析、共起ネットワークはクラスターの分かれ方やデータを構成する単語の関係性からどのような行動があるのかがわかり、このとき予想できるクラスター数はSOMにも利用できる。MDS、対応分析はプロット点やプロット間隔から類似する行動

やイベント性のある行動がわかる。

SOM はクラスターの分かれ方や時系列を表すプロット順を追っていくことで行動パターンを識別し、多くのライフログの中でも類似したライフログか、特徴的でイベント性のあるライフログかわかる。

図3.10はテキストデータとして、データ A, データ B, データ C があり、このテキストデータから各データに三つの行動がある割合で存在していることが検出できた場合を表している。この時、データ A とデータ B は、データの大半が勉強を表す単語であることから勉強している時間が多いことが類似しているため類似性があるといえる。一方でデータ A, データ B と、データ C は類似する単語がなく、類似する行動がないことがわかる。

この三つのデータが一人のユーザーのライフログデータであれば、平常日とイベント日の比較に利用できる。もし、三つのデータがバラバラのユーザーである場合、ライフログの類似性があるユーザーどうしでコミュニケーションを促進することができたり、ライフログの類似性がないユーザーどうしの比較を行うことで行動の中で改善すべき行動を検出できたりする [43]。このようにライフログデータの類似性やイベント性の検出は様々な応用が可能であると考えられる。

## 提案手法

### § 4.1 勾配系を考慮したPSO

Swarm Intelligence（群知能）は、鳥や魚、アリのコロニーなどのグループの行動に基づく最適化手法である。この技術の一つである粒子群最適化が開発され、様々な研究に応用されている。しかし、粒子群最適化の収束は根拠がない。本研究では、より良い最適解を求めるための群知能とニューラルネットワークダイナミックスの新しいハイブリッド動的システムを提案した。本節では主な結果として、粒子群最適化と勾配法のメカニズムを理論的にどのように組み合わせるかを示し、今後は提案システムが客観的な環境のグローバルな情報に基づいて補間探索を実現できることを確認する。

粒子群最適化(Particle Swarm Optimization; PSO)は、群の中の固体(粒子)が持つ最良の情報とそのグループの最適値から過去の探索から考慮した確率的最適化手法であり、ケネディ[1]が社会的行動に基づいて開発した並列進化計算技術である。社会的方法と計算方法の両方を扱うPSOに関する標準的な研究がある[2]。

近年、コンピュータサイエンスの発展は、ハードウェアとソフトウェアの有効性が顕著に表れている。その中で大規模問題の最適化の重要性はますます高めている。ソーシャルネットワークサービスの登場により、ログやパスの問題も大規模になっている。最新のコンピュータでこれらの問題を解決するには時間がかかるてしまう。

本研究では数ステップでもっとも最適な解が見つかる新しいハイブリッド動的システムを提供する。そこで連続PSOアルゴリズムに勾配法を組み込み、定式化を行う。そこで、提案した手法の有効性を示す。その後、提案したPSOの手法を用いて取得したログのクラスタリングを行い、その結果を示す。

PSOは群をなして移動する生物の行動を模範したアルゴリズムである。群をなす生物をモデル化し、粒子は最適化問題における候補解を示している。PSOは群の中の粒子がもつ最良の情報( $p_{best}$ )とその集団の最適値( $g_{best}$ )から過去の探索を考慮し、さらにその集団の各粒子の位置および速度を更新することによって計算される(式4.1, 4.2参照)。以下にPSOの解説を示す(図4.1参照)。

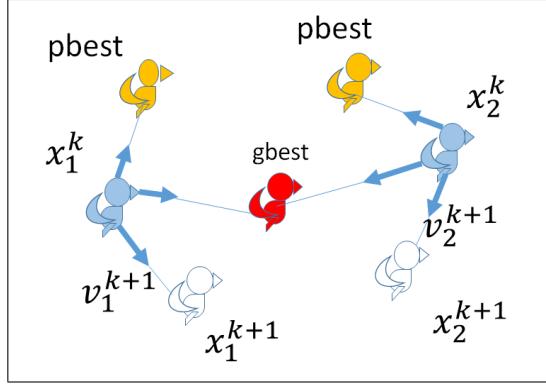


図 4.1: PSO の探索模式図

$$x_d^{k+1} = x_d^k + v_d^{k+1} \quad (4.1)$$

$$v_d^{k+1} = wv_d^k + c_1r_1(x_d^k - x_d^k) + c_2r_2(x_g^k - x_d^k) \quad (4.2)$$

ここで、PSO の探索模式図及び速度と位置の更新式より、pbest に向かう  $c_1r_1(x_{db}^k - x_d^k)$ , gbest に向かう  $c_2r_2(x_{db}^k - x_d^k)$ , これまでの進行方向へ向かう  $wv_d^k$  の 3 つのベクトルを合成して速度ベクトル  $v_i^{k+1}$  を決定し、それを元に次に移動する位置  $x_d^{k+1}$  決定する。

PSO の探索式はランダム要素を含み、同時に最良解情報である pbest と gbest が探索に伴い変化するという時変性を有している [3]. このままの形では理論解析が困難であるので、一つの Particle に着目し、一次元の位置  $x$  と速度  $v$  について考え、さらに pbest と gbest を一つの点に縮約した簡略モデルが提案されている [2]. この簡略モデルは、確定的な線形時不变システムとして表現されており、その安定性を示す。

Particlei に注目すると速度ベクトル  $v^{k+1}$  は以下の式のように変形できる (式 4.3, 4.4). ステップ幅  $\phi$  は二つの一様乱数を足し合わせたものであり、最小値 0, 最大値  $C_1 + C_2$ , 平均  $\frac{C_1 + C_2}{2}$  の分布に従う。

$$V^k + 1 = wv^k + \phi(P - x^k) \quad (4.3)$$

$$P = \frac{\phi_1 pbest^k + \phi_2 gbest^k}{\phi_1 + \phi_2} \quad (4.4)$$

ここで、 $\phi = \phi_1 + \phi_2$ ,  $\phi_1 = C_1 \text{rand}$ ,  $\phi_2 = C_2 \text{rand}$ , さらに  $y^k = p - x^k$  とおくと、式 (4.5) のように表せる。また  $\phi = (C_1 + C_2)/2$  と見なすと固有値  $\lambda$  は式 (4.6) のように表せる。よって  $\lambda$  が 1 を境にシステムの特性が安定・不安定(収束・発散)に変化することが分かる。

$$\begin{bmatrix} v^k + 1 \\ y^k + 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} w & \phi \\ -w & 1 - \phi \end{bmatrix} \begin{bmatrix} v^k \\ y^k \end{bmatrix} \quad (4.5)$$

$$\lambda = \frac{w + 1 - \phi \pm \sqrt{(w + 1 - \phi)^2 - 4w}}{2} \quad (4.6)$$

[文献田中] を元に連続型 PSO アルゴリズム (Continuous Particle Swarm Optimization; CPSO) について述べる。

ベクトル  $y$  と  $\text{sgn}(y)$  の要素によって与えられる対角要素を持つ対角行列を  $\text{diag}[y]$  とする。 $y$  の  $\sigma$  関数を表す。として  $\text{sgn}(y) = 1$  if  $y > 0$  の場合は,  $\text{sgn}(y) = -1$  if  $y < 0$ 。

したがって, 正の定数であると仮定すると, 最小化のために  $X$  の進化を近似することが提案される。また CPSO の安定性解析も議論されている [文献]。

状態変数  $X$ ,  $V$ ,  $X_{db}$  はベクトルではなく, 以前に定義された適切な次元の行列であるため、上記の表記法は標準状態空間表記法ではない。また以下に CPSO の位置と速度の更新式 (式 4.7,4.8) と, アルゴリズムについて示す。問題解決の実行可能領域を考え, 行列による連続時間 PSO 動力学を示す (式 4.9,4.10,4.11)。

CPSO アルゴリズム

- 1: $X, V$  とパラメータ  $\alpha, \beta, \gamma$  と  $a$  の初期値を設定する。
- 2: $X_{db}, X_{gb}$  の初期値を導出する。
- 3: $\dot{V}$  を計算して,  $V$  を更新する。
- 4: $X$  を更新して  $X_{db}, X_{gb}$  を評価する。
- 5:収束すると仮定した場合は終了しそれ以外の場合は 3 から繰り返す。

$$\dot{X} = V \quad (4.7)$$

$$\dot{V} = -\alpha V + \beta(X_{db} - X) + \gamma(X_{gb}T - X) \quad (4.8)$$

$$\dot{X}_{db} = a(X - X_{db})[I_n + \text{diag}[\text{sgn}(F(X_{gb}) - F(X))]] \quad (4.9)$$

$$\dot{X}_{gb} = X_{db}Q_j \quad (4.10)$$

$$j = \arg \inf_{0 < i \leq n} (f(x_{db})) \quad (4.11)$$

オリジナルの PSO アルゴリズムに含まれる恣意性を少なくし, より効率的かつ高精度な探索を実現するために勾配法による速度評価を導入している [文献, 文献]。運動性素子が自分の置かれた近くの環境を知覚してより適合度の高い空間座標を獲得するために, 以下のようなセンサリング・アルゴリズムを搭載する。

勾配によるスケーリングパラメータの導入を行う。粒子が投入された探索空間  $(\xi, \eta)$  には問題に応じた 目的関数  $Q$  が定義されており, 粒子はその最大値か最小値を探索するものとする。現時間ステップ  $k$  における粒子の位置座標を  $(\xi k, \eta k)$  とし, その座標における目的関数の値を  $Q_k$  として, 粒子の移動に伴う目的関数の変化に注目すると次のような目的関数の離散的な勾配  $\alpha$  が得られる。

勾配  $\alpha$  を,  $v_i^{k+1} = \beta^k v_i^k$ ,  $\beta^k = \alpha^{k-1/\alpha k}$  と置くことでランドスケープに合わせた調整が可能となる。つまり, 最適点が遠いと思うなら早く, 近いと感じるならば遅く移動する。よってオリジナル PSO より精密な探索が実施できる。

本節では CPSO に勾配情報の要素を加えた勾配 PSO について解説する。PSO の応用法である CPSO の応用法であり,  $X, Y$  の二つの行列に加えて  $Z$  を加えかつ, いくつかのパラメータを与えて再急降下法を用いる。以下は  $Z$  を表す (式 4.12),

## 勾配 PSO アルゴリズム

- 1:  $X, V$  とパラメータ  $\alpha, \beta, \gamma$  と  $a$  の初期値を設定する.
- 2:  $X_{db}, X_{gb}, X_\mu$  から  $Z$  の初期値を導出する.
- 3:  $\dot{Z}$  を計算して,  $Z$  を更新する.
- 4:  $\dot{V}$  を計算して,  $V$  を更新する.
- 5:  $X$  を更新して  $X_{db}, X_{gb}$  と  $Z$  を評価する.
- 6:  $X_\mu$  を更新する.
- 7: 収束すると仮定した場合は終了しそれ以外の場合は 3 から繰り返す.

$$Z = \beta(X_{db} - X) + \gamma(X_{gb}T - X) + \gamma(X_\mu) \quad (4.12)$$

以下の条件を考慮する (式).  $X_0$  は初期位置行列である.

$$X = X_0 + \int_0^t V(s)ds \quad (4.13)$$

よって勾配 PSO の更新式を以下に示す (式). ここでは  $X, V, X_{db}, X_{gb}, T$  の次元は簡略化のため省略する.

$$\dot{X} = V \quad (4.14)$$

$$\dot{V} = -\alpha V + Z \quad (4.15)$$

$$\dot{Z} = \beta(\dot{X}_{db} - \dot{X}) + (X_{gb}T - \dot{X}) + \delta(\dot{X}_\mu) \quad (4.16)$$

$$\dot{X}_{db} = a(X - X_{db})[I_n + \text{diag}[\text{sgn}(F(X_{gb}) - F(X))]] \quad (4.17)$$

$$\dot{X}_{gb} = X_{db}Q_j, j = \arg \inf_{0 < i \leq n} (f(x_{db_i})) \quad (4.18)$$

$\alpha, \beta, \gamma, \delta$  などの実数は, PSO と勾配情報を調整するために重み付けするパラメータである.  $X_\mu$  はニューラルネットワークのダイナミクスに由来する新しい行列である.  $X_\mu$  は以下で定義する (図 6 参照).

$$x_{\mu i} = -C \sum_{i=1}^n n \frac{\partial f(y_i(t))}{\partial y_i} \frac{\partial \varphi(x(t))}{\partial x_i} \quad (4.19)$$

$$\ddot{x}_i = -\alpha \dot{x}_i(t) + z_i(t) \quad (4.20)$$

$$y_i(t) = \varphi(x_i(t)) \quad (4.21)$$

したがって  $z^k_i$  は  $Z$  のベクトルである. 次に, 差分法を適用する. 理論的な分析の観点から, PSO の  $\dot{V}$  と  $\dot{x}_i$  は同等のものとみなす.  $\beta(\dot{X}_{db} - \dot{X}) + \gamma(\dot{X}_{gb}T - \dot{X})$  は PSO の速度を制御する.  $\delta(\dot{X}_\mu)$  は勾配情報を制御する.

PSO が有するグローバル探索, ニューラルネットワークが持つ局所最急降下法などがある. 連続時間モデルでは, PSO とニューラルネットワークの組み合わせの理論的アルゴリズムが考慮されるが, 分散モデルによって数値シミュレーションが行われる. サンプリング時間の設定は, 係数 ( $\beta, \gamma, \delta$ ) の値によって変化する. したがって,  $X_\mu$  を計算して取得する.

## § 4.2 制約がある場合の PSO

前節までは PSO に勾配情報を加える説明を行った。本節ではそこに制約条件を加える [文献]。連続時間 PSO アルゴリズムについて述べる。

PSO の更新式を力学系モデルとみなし、その連続化を試みると、

$$\frac{dx^p(t)}{dt} = c \int_0^t e^{-a(t-\tau)} [F^p(x^p(\tau), \tau) + C(x^p(\tau), \tau)] d\tau \quad (4.22)$$

$$\frac{d^2x^p(t)}{dt^2} + a \frac{dx^p(t)}{dt} = c [F^p(x^p(t), t) + C(x^p(t), t)] \quad (4.23)$$

またそれぞれの関数  $F^p, C$  は以下のようになる。

$$F^p(x^p, t) = c_1(x^p(T^p(t) - x^p)) \quad (4.24)$$

$$C^p(x^p, t) = c_2(x^{Q(t)}(T^o(t) - x^p)) \quad (4.25)$$

また、2 階微分方程式で表される連続時間系モデルの状態変数表現を、 $u^p(t) = x^p(t)$ 、 $v^p(t) = du^p(t)/dt + au^p(t)$  とおいて導入すると、離散時間系に対応した連続系の内部状態表現モデル、

$$du^p(t)/dt = -au^p(t) + v^p(t) \quad (4.26)$$

$$dv^p(t)/dt = c [F^p(u^p(t), t) + C(u^p(t), t)] \quad (4.27)$$

を得ることができる。

次に提案手法であるハイブリッド PSO について解説する。PSO の応用法である連続時間 PSO アルゴリズムの応用法であり、勾配情報を加えることにより、精密な探索を行うことを狙いとしている。

式 (4.23, 4.24) に勾配情報を加えるとそのモデルは、

$$\frac{dx^p(t)}{dt} = c \int_0^t e^{-a(t-\tau)} [F^p(x^p(\tau), \tau) + C(x^p(\tau), \tau) - \nabla E(x^p(\tau), \tau)] \tau \quad (4.28)$$

$$\frac{d^2x^p(t)}{dt^2} + a \frac{dx^p(t)}{dt} = c [F^p(x^p(t), t) + C(x^p(t), t) - \nabla E(x^p(t), t)] \quad (4.29)$$

またそれぞれの関数は以下のようになる。

$$F^p(x^p, t) = c_1(x^p(T^p(t) - x^p)) \quad (4.30)$$

$$C^p(x^p, t) = c_2(x^{Q(t)}(T^o(t) - x^p)) \quad (4.31)$$

$$\nabla E(x^p, t) = c_3 \frac{\partial E(x^p, t)}{\partial x^p} \quad (4.32)$$

解説したままのモデルでは無制約なので、制約条件に対応したモデルである上下限制約連続時間 PSO モデルを以下の式に示す。上下限制約付最適化問題

$$\min E(x) \quad (4.33)$$

$$subj.top_i \leq x_i \leq q_i, i = 1, \dots, n \quad (4.34)$$

を直接解くために、この上下限制約領域内に問題(4.34),(4.35)の変数を変換して無制約化した新たな変数空間に無制約PSOモデルを適用した「変数変換モデル」を導入する。非線形変数変換モデルを作成するために、

$$x_i = f_i(y_i) = \frac{q_i + p_i \exp(-y_i)}{1 + \exp(-y_i)} \quad (4.35)$$

とおく。この変換式を制約条件付き問題に代入して変数  $x$  を消去すると、

$$\min E(f(y)) \quad (4.36)$$

を得ることができる。よって式(4.30)に対応させると、

$$\frac{d^2 y^p(t)}{dt^2} + a \frac{dy^p(t)}{dt} = c[F^p(y^p(t), t) + C(y^p(t), t) - \nabla E(y^p(t), t)] \quad (4.37)$$

またそれぞれの関数は以下のようになる。

$$F^p(y^p, t) = c_1(y^p(T^p(t) - y^p)) \quad (4.38)$$

$$C^p(y^p, t) = c_2(y^{Q(t)}(T^o(t) - y^p)) \quad (4.39)$$

$$\nabla E(y^p, t) = c_3 \frac{\partial E(y^p, t)}{\partial y^p} \quad (4.40)$$

次にプログラムへの実装を考えた時に、連続式のままではプログラムに実装することが難しいので、オイラー法を用いて連続式を離散化し非線形変数変換モデルの離散化PSOを作成。それぞれに対応する式を以下に示す。

$$u^p(k+1) = (1 - a \Delta T)u^p(k) + \Delta T v^p(k) \quad (4.41)$$

$$v^p(k+1) = v^p(k) + c \Delta T [F^p(u^p(k), k) + C(u^p(k), k) - \nabla E(u^p(k), k)] \quad (4.42)$$

$$F^p(k, k) = c_1(u^p(l^p(k)) - u^p(k)) \quad (4.43)$$

$$C^p(k, k) = c_2(u^{Q(k)}(l^o(k)) - u^p(k)) \quad (4.44)$$

$$\nabla E(k, k) = c_3 \frac{\partial E(k, t)}{\partial k} \quad (4.45)$$

$$l^p(k) = \operatorname{argmin}(E(x^p(l))) | l = 0, \dots, k \quad (4.46)$$

$$(Q(k), l^o(k)) = \operatorname{argmin}(E(x^q(l))) | q = 1, 2, \dots, P, l = 0, 1, \dots, k \quad (4.47)$$

$$x^p_i(k) = f_i(u^p_i(k)) = \frac{q_i + p_i \exp(-u^p_i(k))}{1 + \exp(-u^p_i(k))}, i = i, \dots, n \quad (4.48)$$

提案手法の有効性を示すため評価関数として Rastrigin function<sup>26</sup>(図4.2)と Griewank function<sup>27</sup>(図4.3)を用いて数値実験を行う。これらの評価関数は多峰性ならびに、非常に多くの局所解を持つ。

<sup>26</sup><https://qiita.com/tomitomi3/items/d4318bf7afbc1c835dda> rastrigin-function

<sup>27</sup><https://qiita.com/tomitomi3/items/d4318bf7afbc1c835dda> griewank-function

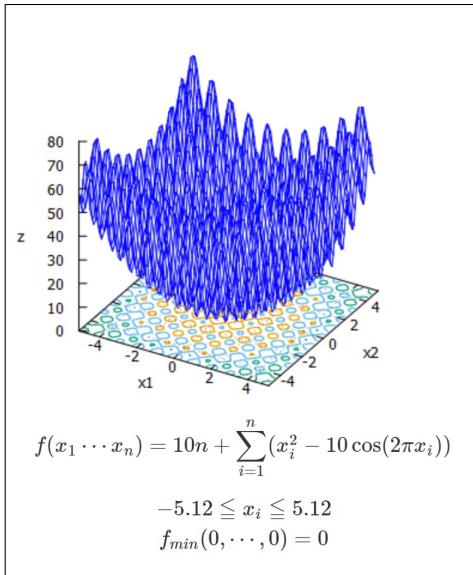


図 4.2: Rastrigin<sup>26</sup>

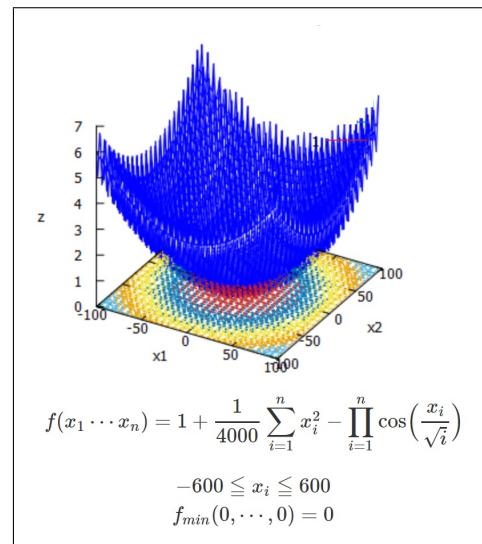


図 4.3: Griewank<sup>27</sup>

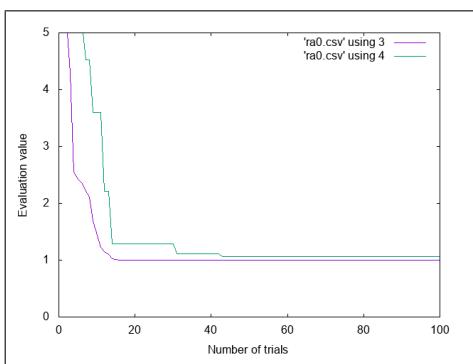


図 4.4: Rastrigin 実行結果

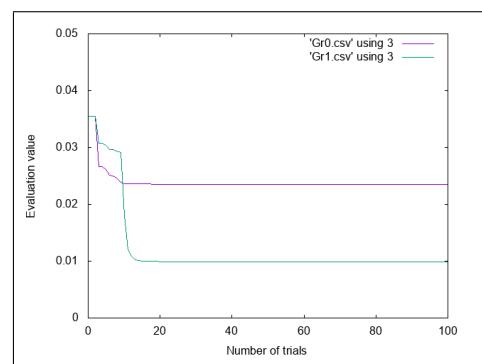


図 4.5: Griewank 実行結果

以下に従来法と提案手法を比較した物を示す(図4.5). 各パラメータの値はN(粒子の数)=10,C=1.0,c<sub>1</sub>・c<sub>2</sub>=1.4,c<sub>3</sub>=0.1,a=1.0,△T=0.9というように与えた. また試行回数は100とした.

加えて評価関数 Matyas function<sup>27</sup>(図4.6)と Booth function<sup>28</sup>(図4.7)を用いて数値実験を行う. この関数は单峰性関数である. 上記の実験と同じ条件で行いその結果を示す(図4.8,4.9). また Booth function の実行時に粒子の数をN=100に変更した場合の結果(図4.10)も示す.

提案手法は多峰性をもつ関数の場合においてあまり良い結果が得られなかった. これは提案手法が勾配法を用いているため多峰性をもつ関数には適していないと思われる. 一方, 单峰性をもつ関数の場合においては従来法よりも良い結果を得ることができた.

また発生させる粒子の数を100から10を比較した場合, 従来法では最適値を導出できな

<sup>28</sup><https://qiita.com/tomitomi3/items/d4318bf7afbc1c835dda> matyas-function

<sup>29</sup><https://qiita.com/tomitomi3/items/d4318bf7afbc1c835dda> booth-function

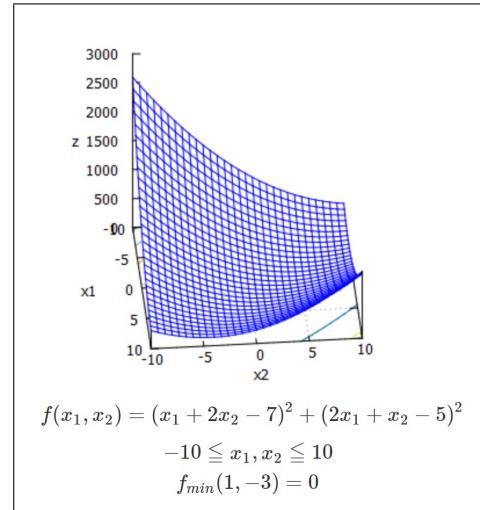
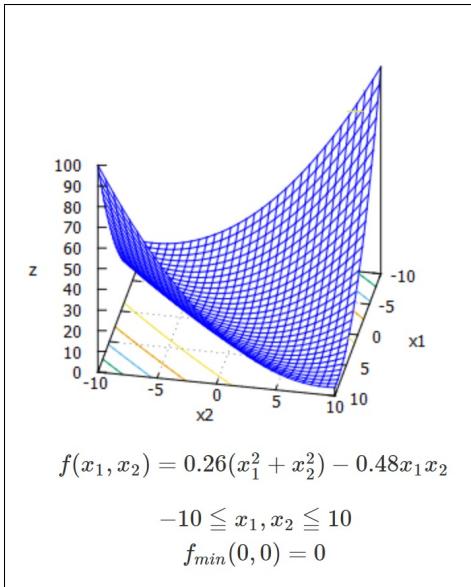


図 4.6: Matyas function<sup>28</sup>

図 4.7: Booth function<sup>29</sup>

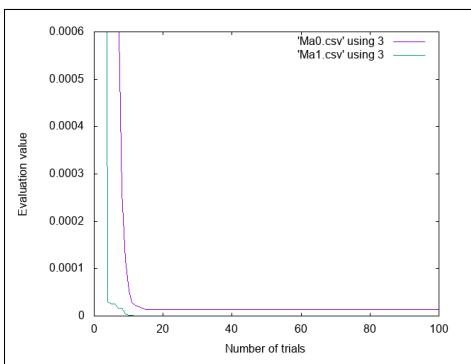


図 4.8: Matyas 実行結果

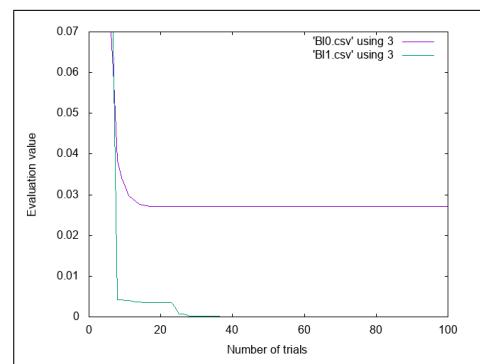


図 4.9: Booth 実行結果

かったが、提案手法では最適値を導出することができた。これにより計算コストの削減が可能となった。

### § 4.3 PSO によるクラスタリング

研究努力により、データクラスタリングを最適化問題と見なすことが可能になった。この見解は、候補クラスタセントロイドの集合を発展させるために PSO アルゴリズムを適用する機会を提供し、それにより手近なデータセットの最適に近い分割を決定する。PSO の重要な利点は、いくつかの候補解を同時に維持し、再結合し、比較することによって局所的な最適条件に対処できることである。対照的に、シミュレーテッドアニーリングアルゴリズム (Selim and Alsultan, 1991) のような局所探索ヒューリスティックは単一の候補解を改良するだけであり、局所最適条件に対処することにおいて悪名高いことが知られている。K 平均法などのアルゴリズムで使用される決定論的局所検索は、常に検索の開始位置

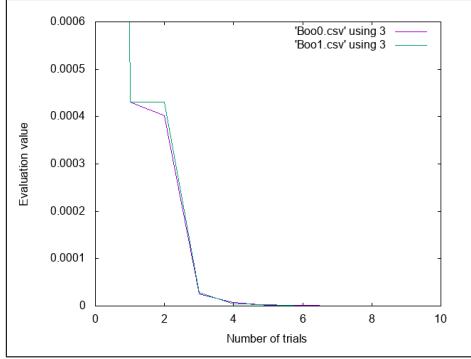


図 4.10: Booth 実行結果  $N=100$  の場合

から最も近い局所最適条件に収束する。

PSO ベースのクラスタリングアルゴリズムは, Omran らによって最初に導入された. (Omran ら, 2002) に記載されている. Omran らの結果 (Omran et al., 2002, Omran et al., 2005a) は, PSO ベースの方法が K-means, FCM, その他いくつかの最先端のクラスタリングアルゴリズムより優れていることを示した. Omran らの方法ではクラスタリングアルゴリズムの性能を判断するために, 量子化誤差に基づく適応度を使用した. 量子化誤差は次のように定義される.

$$J_e = c_3 \frac{\sum_{i=1}^K \sum_{\forall X_j \in C_i} d(X_j, V_i) / n_i}{K} \quad (4.49)$$

ここで,  $C_i$  は  $i$  番目のクラスタ中心,  $n_i$  は  $i$  番目のクラスタに属するデータ点の数である. PSO アルゴリズムの各粒子は, 次のように  $K$  個のクラスタ重心の可能なセットを表す.

$$\vec{Z}_i(t) = \vec{V}_{i,1}, \vec{V}_{i,2}, \dots, \vec{V}_{i,K} \quad (4.50)$$

ここで,  $V_i$ ,  $p$  は,  $i$  番目の粒子の  $p$  番目のクラスター重心ベクトルを表す. 各粒子の品質は, 次の適合度関数によって測定される.

$$f(Z_i, M_i) = w_1 \bar{d}_{max} + w_2 (R_{max} - d_{min}(Z_i)) + w_3 J_e \quad (4.51)$$

上記の式で,  $R_{max}$  はデータセット内の最大の特徴量であり,  $M_i$  は  $i$  番目の粒子のクラスターへのパターンの割り当てを表す行列である. 各要素  $m_{i,k}$  は, パターン  $X_p$  が  $i$  番目の粒子のクラスタ  $C_k$  に属するかどうかを示す. ユーザー定義定数  $w_1$ ,  $w_2$ , および  $w_3$  は, 異なる副目的からの寄与を評価するために使用される. 加えて,

$$\bar{d}_{max} = \max_{K \in 1, 2, \dots, K} \left( \sum_{\forall X_p \in C_i, K} d(X_p, V_{i,k}) / n_{i,k} \right) \quad (4.52)$$

そして,

$$d_{min}(Z_i) = \min_{\in p, q, p \neq q} (d(V_{i,p}, V_{i,q})) \quad (4.53)$$

上記の式は任意のペアのクラスタ間の最小ユークリッド距離である。上記において,  $ni, k$  は, 粒子  $i$  のクラスタ  $C_i, k$  に属するパターンの数である。適応度関数は多目的最適化問題であり, これはクラスタ内距離を最小化し, クラスタ間分離を最大化し, 量子化誤差を減少させる。PSO クラスタリングアルゴリズムは, 以下に示す。

PSO クラスタリングアルゴリズム

- 1 : K 個のランダムクラスター中心を使って各粒子を初期化する。
- 2 : for 繰り返し回数 =1 から最大繰り返し回数まで do
- 3 : for 全ての粒子に対して do
- 4 : for データセット内のすべてのパターン  $X_p$  に対して行う do
- 5 : すべてのクラスター重心を使って  $X_p$  のユークリッド距離を計算する
- 6 :  $X_p$  に最も近い重心を持つクラスターに  $X_p$  を割り当てる
- 7 : end
- 8 : フィットネス関数  $f(Z_i, M_i)$  を計算する
- 9 : end
- 10 : 各パーティクルの個人的および世界的に最良の位置を見つける
- 11 : PSO の式を更新する。
- 12 : end

Van der Merwe と Engelbrecht は, 一般的なデータセットをクラスタリングするための kmeans アルゴリズムである (van der Merwe と Engelbrecht, 2003)。群の単一粒子は, k-means アルゴリズムの結果で初期化される。スウォームの残りの部分はランダムに初期化される。2003 年に, Xiao らは PSO と自己組織化マップ (SOM) との相乗作用に基づく新しいアプローチを用いて遺伝子発現データをクラスタリングした (Xiao ら, 2003)。彼らは, 酵母およびラット肝細胞の遺伝子発現データに対してハイブリッド SOM-PSO アルゴリズムを適用することによって有望な結果を得た。Paterlini and Krink (Paterlini and Krink, 2006) は, 分割に対する代表的な点評価アプローチについて, Kmeans, GA (Holland, 1975, Goldberg, 1975) PSO および微分進化 (DE) (Storn and Price, 1997) の性能を比較した。クラスタリング 結果は PSO と DE が K 平均アルゴリズムより優れていることを示した。

Cui et al. (Cui and Potok, 2005) は, テキスト文書を分類するための PSO ベースのハイブリッドアルゴリズムを提案した。彼らは PSO, K 平均, そして 4 つの異なるテキスト文書データセット上のハイブリッド PSO クラスタリングアルゴリズム。結果はハイブリッド PSO アルゴリズムがよりコンパクトを生成できることを示した。クラスタリングは, K-means アルゴリズムよりも短時間で行われる。

## § 4.4 提案手法のアルゴリズム

### 結論ならびに今後の課題

本研究の目的は、多くの人に広く受け入れられるライログとして、個人情報保護に着目し、手間がかからず自動的にライログデータの取得を行い、取得したデータから類似性やイベント性を考察できることである。開発したライログデータ取得アプリケーションを使用したビッグデータ構築・データ解析を行い、行動パターンの類似性・イベント検出を行った。

結論として、個人情報保護に着目したライログデータ取得アプリケーションの開発ができ、多変量解析を用いることでライログの可視化を行い行動パターンの類似性やイベント性を視覚的に検出するという目標は達成できた。特に、SOMの解析結果より、同じ行動でも視界に写る物体の違いから行動の類似性やイベント性を検出できた。同じ行動でも使用する場所や物体の変化によって別行動として認識させることができるために、ライログデータに位置情報を付加できると考えられる。よって、個人情報保護に着目し取得したライログデータから類似性やイベント性を検出できたと考える。本研究の研究成果は、テキストによるライログデータ取得、解析を行い新たなビジネスプランの検討やユーザー自身の生活の見直しなどに使用できるため、より高度なアプリケーション開発を目指す開発者、研究者の方々の参考になれば幸いである。解明できた点は必ずしも多くはないが、若干なりとも寄与できたと思われる。

今後の課題として、開発したアプリケーションの改善点を上げる。開発したアプリケーションは自動的にライログデータを取得する点が利点として挙げられるが、一方で客観的なライログデータしか取得できないという弱点もある。ユーザーが興味を持った瞬間や、データを取得したい瞬間のライログデータは現状のアプリケーションには含まれていないためである。この弱点に対し、ユーザーが取得したいタイミングでライログデータを取得する方法をアプリケーションに組み込む必要がある。組み込むため、取得したいタイミングを MOVERIO<sup>TM</sup> に伝える方法の検討も必要となる。



# 謝辞

本研究を遂行するにあたり、多大なご指導と終始懇切丁寧なご鞭撻を賜った富山県立大学電子・情報工学科の奥原浩之教授に深甚な謝意を表します。最後になりましたが、多大な協力を頂いた研究室の同輩諸氏に感謝致します。

2018年2月

福嶋 瑞希



## 参考文献

- [1] 中西泰人, 達貴孝, 大山実, 箱崎勝也 “Context Aware Messaging Service : 位置情報とスケジュール情報を用いたコミュニケーションシステムの構築及び運用実験” 情報処理学会論文誌, Vol. 42, No. 7, pp.1847–1857, 2001
- [2] 相澤清晴, “ライフログ”, 映像情報メディア学会誌, Vol. 63, No. 4, pp. 445–448, 2009.
- [3] 三井紀子, 酒井豊子, 中島利誠 “運動中の衣服下気候と着心地に及ぼす纖維の影響” 日生気誌, Vol. 23, No. 1, pp.35–42, 1986
- [4] 柳平雅俊, 安土光男 “運転状態推定技術の開発— 心拍解析による眠気状態の検出—” PIONEER R & D, Vol. 14, No. 3, pp.17–27, 2003
- [5] 前中一介 “絆創膏型人体活動モニタリングシステム” 人工臓器, Vol. 42, No. 1, pp.17–27, 2013
- [6] 芳竹宣裕, 伊藤慎, “ユビキタス環境が生み出す大量情報 「ライフログ」 の活用と実装技術”, NEC 技報, Vol. 62, No. 4, p. 77, 2009.
- [7] 新保史生, “ライフログの定義と法的責任 個人の行動履歴を営利目的で利用することの妥当性”, 情報管理, Vol. 53, No. 6, pp. 295–310, 2010.
- [8] 角田宏貴, Hiroki SUMIDA, “ライフログ分析による行動特徴抽出及びイベント検出”, 法政大学大学院紀要 (情報科学研究科編) , Vol. 9, pp. 119–124, 2014.
- [9] 矢野裕司, 横井健, 橋山智訓, “行動辞書を利用した Twitter からの行動抽出”, 情報科学技術フォーラム講演論文集, Vol. 11, No. 4, pp. 51–56, 2012.
- [10] 緒方広明, “日本語学習を支援するユビキタス学習環境に関する研究”, <http://www.taf.or.jp/files/items/542/File/P212.pdf>, 閲覧日 2018,1,30.
- [11] 啓之田中, “位置情報の規律のあり方 : スマートフォン時代の利便性とプライバシー”, 人間社会研究, Vol. 11, pp. 75–85, 2014.
- [12] 北村圭吾, 山崎俊彦, 相澤清晴, “食事ログの取得と処理—画像処理による食事記録—”, 映像情報メディア学会誌, Vol. 63, No. 3, pp. 376–379, 2009.
- [13] 株式会社N T T データ経営研究所, “日本語学習を支援するユビキタス学習環境に関する研究”, <http://www.keieiken.co.jp/aboutus/newsrelease/161122/>, 閲覧日 2018,2,5.
- [14] 入江英嗣, 森田光貴, 岩崎央, 千竈航平, 放地宏佳, 小木真人, 横原裕大, 芝星帆, 真島一貴, 努吉永, “AirTarget : 光学シースルーワン方式 HMD とマーカレス画像認識による高可搬性実世界志向インターフェース”, 情報処理学会論文誌, Vol. 55, No. 4, pp. 1415–1427, 2014.
- [15] 川上晃平, “スマートグラスを利用した授業支援システムの開発”, 2017.

- [16] 倉田陽平, 真田風, 鈴木祥平, 石川博, “Flickr と Google Cloud Vision API によりテーマ別観光マップを作る試み”, <http://db-event.jpn.org/deim2017/papers/321.pdf>, 閲覧日 2018,1,4.
- [17] 大雄治, 吉川眞, 田中一成, “ソーシャルメディアを活用した景観の分析と評価”, 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集, Vol. 15, pp. 13–16, 2017.
- [18] 小林亜令, 岩本健嗣, 西山智, “釈迦：携帯電話を用いたユーザ移動状態推定・共有方式-モバイルコンピューティング, モバイルアプリケーション, ユビキタス通信, モバイルマルチメディア通信-”, 電子情報通信学会技術研究報告. MoMuC, モバイルマルチメディア通信, Vol. 108, No. 44, pp. 115–120, 2008.
- [19] 寺田努, “ウェアラブルセンサを用いた行動認識技術の現状と課題”, コンピュータ ソフトウェア, Vol. 28, No. 2, pp. 43–54, 2011.
- [20] 貴志一樹, 山崎俊彦, 相澤清晴, “机上行動のライフログのための行動認識”, 映像情報メディア学会年次大会講演予稿集, Vol. 2014, , 2014.
- [21] 前川卓也, 柳沢豊, 岸野泰恵, 石黒勝彦, 亀井剛次, 櫻井保志, 岡留剛, “ウェアラブルセンサによるモノを用いた行動の認識について”, Technical Report 57, 研究報告ユビキタスコンピューティングシステム (UBI) , 2010.
- [22] 樋口耕一, “テキスト型データの計量的分析：2つのアプローチの峻別と統合”, 理論と方法, Vol. 19, No. 1, pp. 101–115, 2004.
- [23] 佐野香織, 李在鎬, “KH Coder で何ができるか：日本語習得・日本語教育研究利用への示唆”, 言語文化と日本語教育, Vol. 33, pp. 94–95, 2007.
- [24] “KH Coder を用いた研究事例のリスト”, <http://khc.sourceforge.net/bib.html>, 閲覧日 2018,1,7.
- [25] 二宮隆次, 小野浩幸, 高橋幸司, 野田博行, “新聞記事を基にしたテキストマイニング手法による産学官連携活動分析”, 科学・技術研究, Vol. 5, No. 1, pp. 93–104, 2016.
- [26] “クラスター分析の手法（階層クラスター分析） — データ分析基礎知識”, [https://www.albert2005.co.jp/knowledge/data\\_mining/cluster/hierarchical\\_clustering](https://www.albert2005.co.jp/knowledge/data_mining/cluster/hierarchical_clustering), 閲覧日 2018,1,24.
- [27] “階層的クラスター分析について”, [http://koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs\\_khn/khcf.cgi?list=&no=977&mode=allread&page=0](http://koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?list=&no=977&mode=allread&page=0), 閲覧日 2018,1,24.
- [28] 吉原一紘, 徳高平蔵, “クラスター分析の概要”, *Journal of Surface Analysis*, Vol. 21, No. 1, pp. 10–17, 2014.
- [29] 李美龍, 田中恒也, 成田吉弘, “画像を用いた製品の「飽き」に関する感性評価: 一デザインの視覚的要素を中心にー”, 日本感性工学会論文誌, Vol. 11, No. 3, pp. 407–417, 2012.

- [30] 小峯敦・下平裕之, “ベヴァリッジ『自由社会における完全雇用』のケインズ的要素-テキストマイニングを加味した量的・質的分析-”, 2017.
- [31] 斎藤堯幸, “多次元尺度構成法”, 計測と制御, Vol. 22, No. 1, pp. 126–131, 1983.
- [32] Joseph B Kruskal, “Multidimensional scaling by optimizing goodness of fit to a non-metric hypothesis”, *Psychometrika*, Vol. 29, No. 1, pp. 1–27, 1964.
- [33] “Jaccard 系数の計算式と特徴 (1) ”, <https://www.slideshare.net/khcoder/jaccard1>, 閲覧日 2018,2,3.
- [34] 中山慶一郎, “<研究ノート>対応分析によるデータ解析”, 関西学院大学社会学部紀要, No. 108, pp. 133–145, 2009.
- [35] 田中京子, “KH Coder と R を用いたネットワーク分析”, 久留米大学コンピュータジャーナル, Vol. 28, pp. 37–52, 2014.
- [36] “共起ネットワークにおける中心性の解釈について”, [http://www.koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs\\_khn/khcf.cgi?no=2493&mode=allread#2496](http://www.koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?no=2493&mode=allread#2496), 閲覧日 2018,2,2.
- [37] 横田尚己, 山田圭二郎, “熊本地震のつぶやきに見る感情極性値の時空間解析”, 都市計画論文集, Vol. 52, No. 3, pp. 1081–1087, 2017.
- [38] 増田正, Masuda Tadashi, 高崎経済大学地域政策学部, “地方議会の会議録に関するテキストマイニング分析：高崎市議会を事例として”, 地域政策研究 = Studies of regional policy, Vol. 15, No. 1, pp. 17–31, 2012.
- [39] T. KOHONEN, “Self-organized formation of topologically correct feature map”, *Biol. Cybern.*, Vol. 43, pp. 59–69, 1982.
- [40] 岡晋之介, “自己組織化マップを用いた気象要素の分類と予測”, <http://www.gifunct.ac.jp/elec/deguchi/sotsuron/oka/oka.html>, 閲覧日 2018,1,7.
- [41] “自己組織化特徴マップ (SOM) ”, <http://www.sist.ac.jp/kanakubo/research/neuro/selforganizingmap.html>, 閲覧日 2018,1,31.
- [42] “KH Coder 掲示板”, [http://koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs\\_khn/khcf.cgi?&no=3457&reno=3454&oya=3454&mode=msgview](http://koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?&no=3457&reno=3454&oya=3454&mode=msgview), 閲覧日 2018,1,20.
- [43] 勝治宏基, 米澤拓郎, 中澤仁, 高汐一紀, 徳田英幸ほか, “Synchrometer: ライフログを利用した日常行動における他者との類似度生成”, 研究報告ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), Vol. 2013, No. 17, pp. 1–7, 2013.
- [44] “R-Tips”, <http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips.pdf>, 閲覧日 2018,1,20.



# 付録

## A. 1 ライフログデータ取得アプリケーションのソースコード

ライフログデータ取得アプリケーションのソースコード A.1 をしめす。

ソースコード A. 1: app.cs

```
1  using UnityEngine;
2  using System.Collections;
3  using System.Collections.Generic;
4  using UnityEngine.UI;
5  using System.IO;
6  using System;
7  using System.Text;
8  using System.Linq;
9
10 public class app : MonoBehaviour
11 {
12     private float captureIntervalSeconds = 50.0f;
13     private float captureIntervalSeconds2 = 5.0f;
14     public Text gtext;
15     Dictionary<string, string> headers;
16     private int Width = 1280;
17     private int Height = 720;
18     private int FPS = 30;
19     private WebCamTexture webcamTexture;
20     private Color32[] color32;
21     string responseData;
22     private string reportFileName2 = "long_report.txt";
23     public bool addDateTime = true;
24
25     void Start ()
26     {
27         Screen.sleepTimeout = SleepTimeout.NeverSleep;
28         StartCoroutine ("Sample");
29     }
30
31     public IEnumerator Sample ()
32     {
33         WebCamDevice[] devices = WebCamTexture.devices;
34         WebCamDevice userCameraDevice = WebCamTexture.devices [0];
35         webcamTexture = new WebCamTexture (userCameraDevice.name, Width, Height,
36                                         FPS);
37         webcamTexture.Play ();
38         Debug.Log ("webcamTexture");
39
40         yield return new WaitForSeconds (captureIntervalSeconds2);
41         color32 = webcamTexture.GetPixels32 ();
42         Texture2D texture = new Texture2D (webcamTexture.width, webcamTexture.height
43                                         );
44         texture.SetPixels32 (color32);
45         texture.Apply ();
46         byte[] jpg = texture.EncodeToJPG ();
47         string VISIONKEY = "API KEY";
```

```

46 var uri = "https://westus.api.cognitive.microsoft.com/vision/v1.0/
47   describe";
48
49 var headers = new Dictionary<string, string> () {
50   { "Ocp-Apim-Subscription-Key", VISIONKEY },
51   { "Content-Type", "application/octet-stream" }
52 };
53
54 WWW www = new WWW (uri, jpg, headers);
55 yield return www;
56 responseData = www.text;
57 gtext.text = responseData;
58 DateTime dt = DateTime.Now;
59 string text2 = dt.ToString ("[yyyy-MM-dd HH:mm:ss]") + responseData.ToString
59   () + "\n";
60 string outfile2 = reportFileName2;
61
62 if (addDateTime) {
63   string file2 = Path.GetFileNameWithoutExtension (reportFileName2);
64   string ext2 = Path.GetExtension (reportFileName2);
65   outfile2 = file2 + "_" + dt.ToString ("yyyyMMdd") + ext2;
66 }
67
68 SaveText (text2, Path.Combine (Application.persistentDataPath, outfile2));
69 color32 = null;
70 StartCoroutine ("StopRunTimeTemp");
71 }
72
73 public IEnumerator StopRunTimeTemp ()
74 {
75   webcamTexture.Stop ();
76   yield return new WaitForSeconds (captureIntervalSeconds);
77   StartCoroutine ("Sample");
78 }
79
80 public static bool SaveText (string text, string path)
81 {
82   try {
83     using (StreamWriter writer = new StreamWriter (path, true)) {
84       writer.Write (text);
85       writer.Flush ();
86       writer.Close ();
87     }
88   } catch (Exception e) {
89     Debug.Log (e.Message);
90     return false;
91   }
92   return true;
93 }
94 }

```

---

## A. 2 時系列SOMを作成するソースコード

時系列SOMを作成するソースコード A.2 をしめす。

### ソースコード A. 2: som.r

```

1 d <- NULL
2 d <- matrix(
3   c(1,1,1,0,2,0,0,0,0,0,0,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
4     0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
5   2,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
6     0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
7   3,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
8     0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
9   4,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
10   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
11   5,2,1,0,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
12   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
13   6,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
14   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
15   7,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
16   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
17   8,2,1,0,2,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
18   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
19   9,2,1,0,0,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
20   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
21   10,2,1,0,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
22   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
23   11,2,1,0,0,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
24   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
25   12,2,1,0,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
26   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
27   13,2,1,0,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
28   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
29   14,2,1,0,1,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,
30   0,0,0,0,0,0,0,2,1,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,

```













```

400 d <- subset(d, rowSums(d) > 0)
401 d <- scale(d)
402 d <- t(d)
403 d <- t(d)
404 rownames(d) <- 1:nrow(d)
405 # SOM
406 library(som)
407 somm <- som(
408   d,
409   n_nodes,
410   n_nodes,
411   topol="hexa",
412   rlen=c(rlen1,rlen2)
413 )
414
415 word_labs <- rownames(d)
416 n_words <- length(word_labs)
417 color_universal_design <- 1
418 cex <- 1
419 text_font <- 2
420 if_cls <- 1
421 n_cls <- 9
422 if_plothex <- 1
423
424 row2coods <- NULL
425 eve <- 0
426 for (i in 0:(n_nodes - 1)){
427   for (h in 0:(n_nodes - 1)){
428     row2coods <- c(row2coods, h + e
429       ve, i)
430   }
431   if (eve == 0){
432     eve <- 0.5
433   } else {
434     eve <- 0
435   }
436 row2coods <- matrix( row2coods, byr
437   ow=T, ncol=2 )
438
439 if ( if_cls == 1 ){
440   library( RColorBrewer )
441
442   if (
443     ( as.numeric( R.Version()$majo
444       r ) >= 3 )
445     && ( as.numeric( R.Version()$mi
446       nor ) >= 1.0 )
447   ){ # >= R 3.1.0
448     hcl <- hclust( dist(somm$code,m
449       ethod="euclidean"), method="w
450       ard.D2" )
451   } else { # <= R 3.0
452     hcl <- hclust( dist(somm$code,m
453       ethod="euclidean")^2, method=
454       "ward" )
455   }
456
457   colors <- NULL
458   if (n_cls <= 9){
459
460     pastel <- brewer.pal(9, "Pastel1
461       ")
462     pastel[6] = "gray91"
463     pastel[9] = "#F5F5DC" # FAF3C8
464       F7F1C6 EEE8AA F0E68C
465     colors <- pastel[cutree(hcl,k=n_cl
466       s)]
467   }
468   if (n_cls > 9) {
469
470     library(colorspace)
471     new_col <- order( runif(n_cls) )
472     colors <-
473       rainbow_hcl(n_cls, start=20, en
474       d=340, l=92, c=20)[
475         #terrain_hcl(n_cls, c = c(35, 5),
476         l = c(85, 95), power = c(0.5,1)
477       ]
478     new_col[cutree(hcl,k=n_cls)]
479   }
480   }
481   } else {
482     colors <- rep("gray90", n_nodes^2)
483   }
484   labcd <- NULL
485
486   plot_mode <- "color"
487   par(mai=c(0,0,0,0), mar=c(0,0,0,0), o
488     mi=c(0,0,0,0), oma =c(0,0,0,0) )
489
490   plot(
491     NULL,NULL,
492     xlim=c(0,n_nodes-0.5),
493     ylim=c(0,n_nodes-1),
494     axes=F,
495     frame.plot=F
496   )
497
498   if (if_plothex == 1){
499     a <- 0.3333333333333333
500   } else {
501     a <- 0.5
502     b <- 1-a
503   }
504   color_pte <- "gray70"
505   cls_lwd <- 2
506
507   if ( plot_mode == "gray" ){
508     color_act <- rep("white",n_node
509       s^2)
510     if_points <- 1
511     w_lwd <- 1
512     cls_lwd <- 2.25
513     color_cls <- "gray35"
514     color_line <- "gray50"
515     color_pte <- "gray40"
516     color_ptf <- "gray85"
517   }
518   if ( plot_mode == "color" ) {
519     color_act <- colors
520   }

```



```

619      cu <- c(
620          cu,
621          dist_m[
622              h + i * n_nodes + 1,
623              h + ( i + 1 ) * n_nodes
624              + 1
625          ]
626      }
627  }
628
629  if (i != 0){
630      if (h %% 2 == 0){
631          if (h != 0){
632              cu <- c(
633                  cu,
634                  dist_m[
635                      h + i * n_nodes + 1,
636                      h - 1 + ( i - 1 ) * n_
637                      nodes + 1
638                  ]
639              )
640          } else {
641              cu <- c(
642                  cu,
643                  dist_m[
644                      h + i * n_nodes + 1,
645                      h + ( i - 1 ) * n_nodes
646                      + 1
647                  ]
648              )
649          }
650      dist_u <- c(dist_u, median(cu) )
651  }
652 }
653
654 print( summary(dist_u) )
655
656 dist_u <- dist_u - min(dist_u)
657 dist_u <- round( dist_u / max(dist_
658 u) * 100 ) + 1
659
660 if (color_universal_design == 0){
661     color_act <- cm.colors(101)[dist_
662     u]
663     color_line <- "gray70"
664     color_cls <- "gray45"
665 } else {
666     library(RColorBrewer)
667     if (T){
668         col_seed <- brewer.pal(9, "GnBu
669         ")
670         myPalette <- colorRampPalett
671         e( col_seed )
672         color_act <- myPalette(101)[dis
673         t_u]
674         color_act <- adjustcolor(color_a
675         ct, alpha=0.8)
676         color_line <- "white"
677     }
678
679     color_cls <- "gray30"
680 }
681
682 if (color_act == "gray30"){
683     col_seed <- rev(brewer.pal(9, "RdY1Bu"))
684     myPalette <- colorRampPalett
685     e( col_seed )
686     color_act <- myPalette(101)[dis
687     t_u]
688     color_act <- adjustcolor(color_a
689     ct, alpha=0.8)
690     color_line <- "gray50"
691     color_cls <- "gray25"
692 }
693
694 if (color_act == "gray45"){
695     col_seed <- rev(brewer.pal(9, "RdY1Bu"))
696     myPalette <- colorRampPalett
697     e( col_seed )
698     color_act <- myPalette(101)[dis
699     t_u]
700     color_act <- adjustcolor(color_a
701     ct, alpha=0.8)
702     color_line <- "white"
703     color_cls <- "gray50"
704 }
705
706 if (color_act == "gray70"){
707     col_seed <- rev(brewer.pal(9, "RdY1Bu"))
708     myPalette <- colorRampPalett
709     e( col_seed )
710     color_act <- myPalette(101)[dis
711     t_u]
712     color_act <- adjustcolor(color_a
713     ct, alpha=0.8)
714     color_line <- "gray50"
715     color_cls <- "gray25"
716 }
717
718 if (color_act == "white"){
719     col_seed <- rev(brewer.pal(9, "RdY1Bu"))
720     myPalette <- colorRampPalett
721     e( col_seed )
722     color_act <- myPalette(101)[dis
723     t_u]
724     color_act <- adjustcolor(color_a
725     ct, alpha=0.8)
726     color_line <- "white"
727     color_cls <- "white"
728 }
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289
1290
1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1320
1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
1329
1330
1331
1332
1333
1334
1335
1336
1337
1338
1339
1340
1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1399
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1489
1490
1491
1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1499
1500
1501
1502
1503
1504
1505
1506
1507
1508
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1519
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1529
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1536
1537
1538
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
1549
1550
1551
1552
1553
1554
1555
1556
1557
1558
1559
1560
1561
1562
1563
1564
1565
1566
1567
1568
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
1578
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
1590
1591
1592
1593
1594
1595
1596
1597
1598
1599
1600
1601
1602
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1610
1611
1612
1613
1614
1615
1616
1617
1618
1619
1620
1621
1622
1623
1624
1625
1626
1627
1628
1629
1630
1631
1632
1633
1634
1635
1636
1637
1638
1639
1640
1641
1642
1643
1644
1645
1646
1647
1648
1649
1650
1651
1652
1653
1654
1655
1656
1657
1658
1659
1660
1661
1662
1663
1664
1665
1666
1667
1668
1669
1670
1671
1672
1673
1674
1675
1676
1677
1678
1679
1680
1681
1682
1683
1684
1685
1686
1687
1688
1689
1690
1691
1692
1693
1694
1695
1696
1697
1698
1699
1700
1701
1702
1703
1704
1705
1706
1707
1708
1709
1710
1711
1712
1713
1714
1715
1716
1717
1718
1719
1720
1721
1722
1723
1724
1725
1726
1727
1728
1729
1730
1731
1732
1733
1734
1735
1736
1737
1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745
1746
1747
1748
1749
1750
1751
1752
1753
1754
1755
1756
1757
1758
1759
1760
1761
1762
1763
1764
1765
1766
1767
1768
1769
1770
1771
1772
1773
1774
1775
1776
1777
1778
1779
1780
1781
1782
1783
1784
1785
1786
1787
1788
1789
1790
1791
1792
1793
1794
1795
1796
1797
1798
1799
1800
1801
1802
1803
1804
1805
1806
1807
1808
1809
1810
1811
1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
1819
1820
1821
1822
1823
1824
1825
1826
1827
1828
1829
1830
1831
1832
1833
1834
1835
1836
1837
1838
1839
1840
1841
1842
1843
1844
1845
1846
1847
1848
1849
1850
1851
1852
1853
1854
1855
1856
1857
1858
1859
1860
1861
1862
1863
1864
1865
1866
1867
1868
1869
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900
1901
1902
1903
1904
1905
1906
1907
1908
1909
1910
1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2029
2030
2031
2032
2033
2034
2035
2036
2037
2038
2039
2039
2040
2041
2042
2043
2044
2045
2046
2047
2048
2049
2049
2050
2051
2052
2053
2054
2055
2056
2057
2058
2059
2059
2060
2061
2062
2063
2064
2065
2066
2067
2068
2069
2069
2070
2071
2072
2073
2074
2075
2076
2077
2078
2079
2079
2080
2081
2082
2083
2084
2085
2086
2087
2088
2089
2089
2090
2091
2092
2093
2094
2095
2096
2097
2098
2099
2099
2100
2101
2102
2103
2104
2105
2106
2107
2108
2109
2109
2110
2111
2112
2113
2114
2115
2116
2117
2118
2119
2119
2120
2121
2122
2123
2124
2125
2126
2127
2128
2129
2129
2130
2131
2132
2133
2134
2135
2136
2137
2138
2139
2139
2140
2141
2142
2143
2144
2145
2146
2147
2148
2149
2149
2150
2151
2152
2153
2154
2155
2156
2157
2158
2159
2159
2160
2161
2162
2163
2164
2165
2166
2167
2168
2169
2169
2170
2171
2172
2173
2174
2175
2176
2177
2178
2179
2179
2180
2181
2182
2183
2184
2185
2186
2187
2188
2189
2189
2190
2191
2192
2193
2194
2195
2196
2197
2198
2198
2199
2199
2200
2201
2202
2203
2204
2205
2206
2207
2208
2209
2209
2210
2211
2212
2213
2214
2215
2216
2217
2218
2219
2219
2220
2221
2222
2223
2224
2225
2226
2227
2228
2229
2229
2230
2231
2232
2233
2234
2235
2236
2237
2238
2239
2239
2240
2241
2242
2243
2244
2245
2246
2247
2248
2249
2249
2250
2251
2252
2253
2254
2255
2256
2257
2258
2259
2259
2260
2261
2262
2263
2264
2265
2266
2267
2268
2269
2269
2270
2271
2272
2273
2274
2275
2276
2277
2278
2279
2279
2280
2281
2282
2283
2284
2285
2286
2287
2288
2289
2289
2290
2291
2292
2293
2294
2295
2296
2297
2297
2298
2299
2299
2300
2301
2302
2303
2304
2305
2306
2307
2308
2309
2309
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2316
2317
2318
2319
2319
2320
2321
2322
2323
2324
2325
2326
2327
2328
2329
2329
2330
2331
2332
2333
2334
2335
2336
2337
2338
2339
2339
2340
2341
2342
2343
2344
2345
2346
2347
2348
2349
2349
2350
2351
2352
2353
2354
2355
2356
2357
2358
2359
2359
2360
2361
2362
2363
2364
2365
2366
2367
2368
2369
2369
2370
2371
2372
2373
2374
2375
2376
2377
2378
2379
2379
2380
2381
2382
2383
2384
2385
2386
2387
2388
2389
2389
2390
2391
2392
2393
2394
2395
2396
2397
2398
2398
2399
2399
2400
2401
2402
2403
2404
2405
2406
2407
2408
2409
2409
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2419
2419
2420
2421
2422
2423
2424
2425
2426
2427
2428
2429
2429
2430
2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2439
2439
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
2449
2449
2450
2451
2452
2453
2454
2455
2456
2457
2458
2459
2459
2460
2461
2462
2463
2464
2465
2466
2467
2468
2469
2469
2470
2471
2472
2473
2474
2475
2476
2477
2478
2479
2479
2480
2481
2482
2483
2484
2485
2486
2487
2488
2489
2489
2490
2491
2492
2493
2494
2495
2496
2497
2498
2498
2499
2499
2500
2501
2502
2503
2504
2505
2506
2507
2508
2509
2509
2510
2511
2512
2513
2514
2515
2516
2517
2518
2519
2519
2520
2521
2522
2523
2524
2525
2526
2527
2528
2529
2529
2530
2531
2532
2533
2534
2535
2536
2537
2538
2539
2539
2540
2541
2542
2543
2544
2545
2546
2547
2548
2549
2549
2550
2551
2552
2553
2554
2555
2556
2557
2558
2559
2559
2560
2561
2562
2563
2564
2565
2566
2567
2568
2569
2569
2570
2571
2572
2573
2574
2575
2576
2577
2578
2579
2579
2580
2581
2582
2583
2584
2585
2586
2587
2588
2589
2589
2590
2591
2592
2593
2594
2595
2596
2597
2598
2598
2599
2599
2600
2601
2602
2603
2604
2605
2606
2607
2608
2609
2609
2610
2611
2612
2613
2614
2615
2616
2617
2618
2619
2619
2620
2621
2622
2623
2624
2625
2626
2627
2628
2629
2629
2630
2631
2632
2633
2634
2635
2636
2637
2638
2639
2639
2640
2641
2642
2643
2644
2645
2646
2647
2648
2649
2649
2650
2651
2652
2653
2654
2655
2656
2657
2658
2659
2659
2660
2661
2662
2663
2664
2665
2666
2667
2668
2669
2669
2670
2671
2672
2673
2674
2675
2676
2677
2678
2679
2679
2680
2681
2682
2683
2684
2685
2686
2687
2688
2689
2689
2690
2691
2692
2693
2694
2695
2696
2697
2698
2698
2699
2699
2700
2701
2702
2703
2704
2705
2706
2707
2708
2709
2709
2710
2711
2712
2713
2714
2715
2716
2717
2718
2719
2720
2721
2722
2723
2724
2725
2726
2727
2728
2729
2729
2730
2731
2732
2733
2734
2735
2736
2737
2738
2739
2739
2740
2741
2742
2743
2744
2745
2746
2747
2748
2749
2749
2750
2751
2752
2753
2754
2755
2756
2757
2758
2759
2759
2760
2761
2762
2763
2764
2765
2766
2767
2768
2769
2769
2770
2771
2772
2773
2774
2775
2776
2777
2778
2779
2779
2780
2781
2782
2783
2784
2785
2786
2787
2788
2789
2789
2790
2791
2792
2793
2794
2795
2796
2797
2798
2798
2799
2799
2800
2801
2802
2803
2804
2805
2806
2807
2808
2809
2809
2810
2811
2812
2813
2814
2815
2816
2817
2818
2819
2819
2820
2821
2822
2823
2824
2825
2826
2827
2828
2829
2829
2830
2831
2832
2833
2834
2835
2836
2837
2838
2839
2839
2840
2841
2842
2843
2844
2845
2846
2847
2848
2849
2849
2850
2851
2852
2853
2854
2855
2856
2857
2858
2859
2859
2860
2861
2862
2863
2864
2865
2866
2867
2868
2869
2869
2870
2871
2872
2873
2874
2875
2876
2877
2878
2879
2879
2880
2881
2882
2883
2884
2885
2886
2887
2888
2889
2889
2890
2891
2892
2893
2894
2895
2896
2897
2898
2898
2899
2899
2900
2901
2902
2903
2904
2905
2906
2907
2908
2909
2909
2910
2911
2912
2913
2914
2915
2916
2917
2918
2
```

```

725      x <- x + 0.5
726  }
727  segments(
728      x + 0.5, y + a,
729      x + 0.5, y - a,
730      col=color_line,
731      lwd=w_lwd,
732  )
733  }
734  if ( y %% 2 == 0 ){
735    segments(
736      -0.5, y + a,
737      0 , y + 1 - a,
738      col=color_line,
739      lwd=w_lwd,
740  )
741  if ( y != 0){
742    segments(
743      -0.5, y - a,
744      0 , y - 1 + a,
745      col=color_line,
746      lwd=w_lwd,
747  )
748  }
749  } else {
750    if ( y != n_nodes - 1){
751      segments(
752        n_nodes - 0.5, y + 1 - a,
753        n_nodes , y + a,
754        col=color_line,
755        lwd=w_lwd,
756      )
757    }
758    segments(
759      n_nodes - 0.5, y - 1 + a,
760      n_nodes , y - a,
761      col=color_line,
762      lwd=w_lwd,
763    )
764  }
765  }

766 for (i in 0:(n_nodes - 2)){
767  for (h in 0:(n_nodes - 1)){
768    if (i %% 2 == 1){
769      chk <- 1
770    } else {
771      chk <- 0
772    }
773    if (
774      is.na(colors[h + i * n_nodes
775        + 1]) == 1
776      || is.na(colors[h + chk + (i+1) *
777        n_nodes + 1]) == 1
778      || h + chk == n_nodes
779    ){
780      next
781    }
782    if (
783      colors[h + i * n_nodes + 1]
784      == colors[h + chk + (i+1) * n_
785        nodes + 1]
786    ){
787      x <- h
788      y <- i
789      if ( y %% 2 == 1 ){
790        x <- x + 0.5
791      }
792      segments(
793        x, y + b,
794        x + 0.5, y + a,
795        col=color_line,
796        lwd=w_lwd,
797      )
798    }
799  }
800  }
801  }

802 for (i in 0:(n_nodes - 2)){
803  for (h in 0:(n_nodes - 1)){
804    if (i %% 2 == 0){
805      chk <- 1
806    } else {
807      chk <- 0
808    }
809    if (
810      is.na(colors[h + i * n_nodes
811        + 1]) == 1
812      || is.na(colors[h - chk + (i+1) *
813        n_nodes + 1]) == 1
814      || h - chk < 0
815    ){
816      next
817    }
818    if (
819      colors[h + i * n_nodes + 1]
820      == colors[h - chk + (i+1) * n_
821        nodes + 1]
822    ){
823      x <- h
824      y <- i
825      if ( y %% 2 == 1 ){
826        x <- x + 0.5
827      }
828      segments(
829        x, y + b,
830        x - 0.5, y + a,
831        col=color_line,
832        lwd=w_lwd,
833      )
834    }
835  }
836  }

837 for (i in 0:(n_nodes - 1)){
838  for (h in 0:(n_nodes - 2)){
839    if ( colors[h + i * n_nodes + 1] !=
840

```

```

841 colors[h + i * n_nodes + 2] ){
842   x <- h
843   y <- i
844   if ( y %% 2 == 1 ){
845     x <- x + 0.5
846   }
847   segments(
848     x + 0.5, y + a,
849     x + 0.5, y - a,
850     col=color_cls,
851     lwd=cls_lwd,
852   )
853 }
854 }
855 }
856
857 for (i in 0:(n_nodes - 2)){
858   for (h in 0:(n_nodes - 1)){
859     if (i %% 2 == 1){
860       chk <- 1
861     } else {
862       chk <- 0
863     }
864
865     if (
866       is.na(colors[h + i * n_nodes
867       + 1]) == 1
868     || is.na(colors[h + chk + (i+1) *
869       n_nodes + 1]) == 1
870     || h + chk == n_nodes
871   ){
872     next
873   }
874
875   if (
876     colors[h + i * n_nodes + 1]
877     != colors[h + chk + (i+1) * n_n
878       odes + 1]
879   ){
880     x <- h
881     y <- i
882     if ( y %% 2 == 1 ){
883       x <- x + 0.5
884     }
885     segments(
886       x, y + b,
887       x + 0.5, y + a,
888       col=color_cls,
889       lwd=cls_lwd,
890     )
891   }
892
893 for (i in 0:(n_nodes - 2)){
894   for (h in 0:(n_nodes - 1)){
895     if (i %% 2 == 0){
896       chk <- 1
897     } else {
898       chk <- 0
899     }
900
901     if (
902       is.na(colors[h + i * n_nodes
903       + 1]) == 1
904     || is.na(colors[h - chk + (i+1) *
905       n_nodes + 1]) == 1
906     || h - chk < 0
907   ){
908     next
909   }
910
911   if (
912     colors[h + i * n_nodes + 1]
913     != colors[h - chk + (i+1) * n_n
914       odes + 1]
915   ){
916     x <- h
917     y <- i
918     if ( y %% 2 == 1 ){
919       x <- x + 0.5
920     }
921     segments(
922       x, y + b,
923       x - 0.5, y + a,
924       col=color_cls,
925       lwd=cls_lwd,
926     )
927   }
928
929   points <- NULL
930   sf <- 0.35
931   a <- a * sf;
932   b <- b * sf;
933   c <- 0.5 * sf;
934   for (i in 1:nrow(somm$visual)){
935     x <- somm$visual[i,1]
936     y <- somm$visual[i,2]
937     if ( y %% 2 == 1 ){
938       x <- x + 0.5
939     }
940     points <- c(points, x, y)
941   }
942   points <- matrix( points, byrow=T, n
943     col=2 )
944   if( if_points == 1 ){
945     if (F){
946       for (i in 1:nrow(points)){
947         x <- points[i,1]
948         y <- points[i,2]
949
950       polygon(
951         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
952         - c, x ),
953         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
954         a, y + a, y + b ),
955       )
956     }
957   }
958
959   if ( if_points == 1 ){
960     if (F){
961       for (i in 1:nrow(points)){
962         x <- points[i,1]
963         y <- points[i,2]
964
965       polygon(
966         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
967         - c, x ),
968         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
969         a, y + a, y + b ),
970       )
971     }
972   }
973
974   if ( if_points == 1 ){
975     if (F){
976       for (i in 1:nrow(points)){
977         x <- points[i,1]
978         y <- points[i,2]
979
980       polygon(
981         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
982         - c, x ),
983         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
984         a, y + a, y + b ),
985       )
986     }
987   }
988
989   if ( if_points == 1 ){
990     if (F){
991       for (i in 1:nrow(points)){
992         x <- points[i,1]
993         y <- points[i,2]
994
995       polygon(
996         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
997         - c, x ),
998         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
999         a, y + a, y + b ),
1000       )
1001     }
1002   }
1003
1004   if ( if_points == 1 ){
1005     if (F){
1006       for (i in 1:nrow(points)){
1007         x <- points[i,1]
1008         y <- points[i,2]
1009
1010       polygon(
1011         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1012         - c, x ),
1013         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1014         a, y + a, y + b ),
1015       )
1016     }
1017   }
1018
1019   if ( if_points == 1 ){
1020     if (F){
1021       for (i in 1:nrow(points)){
1022         x <- points[i,1]
1023         y <- points[i,2]
1024
1025       polygon(
1026         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1027         - c, x ),
1028         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1029         a, y + a, y + b ),
1030       )
1031     }
1032   }
1033
1034   if ( if_points == 1 ){
1035     if (F){
1036       for (i in 1:nrow(points)){
1037         x <- points[i,1]
1038         y <- points[i,2]
1039
1040       polygon(
1041         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1042         - c, x ),
1043         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1044         a, y + a, y + b ),
1045       )
1046     }
1047   }
1048
1049   if ( if_points == 1 ){
1050     if (F){
1051       for (i in 1:nrow(points)){
1052         x <- points[i,1]
1053         y <- points[i,2]
1054
1055       polygon(
1056         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1057         - c, x ),
1058         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1059         a, y + a, y + b ),
1060       )
1061     }
1062   }
1063
1064   if ( if_points == 1 ){
1065     if (F){
1066       for (i in 1:nrow(points)){
1067         x <- points[i,1]
1068         y <- points[i,2]
1069
1070       polygon(
1071         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1072         - c, x ),
1073         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1074         a, y + a, y + b ),
1075       )
1076     }
1077   }
1078
1079   if ( if_points == 1 ){
1080     if (F){
1081       for (i in 1:nrow(points)){
1082         x <- points[i,1]
1083         y <- points[i,2]
1084
1085       polygon(
1086         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1087         - c, x ),
1088         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1089         a, y + a, y + b ),
1090       )
1091     }
1092   }
1093
1094   if ( if_points == 1 ){
1095     if (F){
1096       for (i in 1:nrow(points)){
1097         x <- points[i,1]
1098         y <- points[i,2]
1099
1100       polygon(
1101         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1102         - c, x ),
1103         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1104         a, y + a, y + b ),
1105       )
1106     }
1107   }
1108
1109   if ( if_points == 1 ){
1110     if (F){
1111       for (i in 1:nrow(points)){
1112         x <- points[i,1]
1113         y <- points[i,2]
1114
1115       polygon(
1116         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1117         - c, x ),
1118         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1119         a, y + a, y + b ),
1120       )
1121     }
1122   }
1123
1124   if ( if_points == 1 ){
1125     if (F){
1126       for (i in 1:nrow(points)){
1127         x <- points[i,1]
1128         y <- points[i,2]
1129
1130       polygon(
1131         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1132         - c, x ),
1133         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1134         a, y + a, y + b ),
1135       )
1136     }
1137   }
1138
1139   if ( if_points == 1 ){
1140     if (F){
1141       for (i in 1:nrow(points)){
1142         x <- points[i,1]
1143         y <- points[i,2]
1144
1145       polygon(
1146         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1147         - c, x ),
1148         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1149         a, y + a, y + b ),
1150       )
1151     }
1152   }
1153
1154   if ( if_points == 1 ){
1155     if (F){
1156       for (i in 1:nrow(points)){
1157         x <- points[i,1]
1158         y <- points[i,2]
1159
1160       polygon(
1161         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1162         - c, x ),
1163         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1164         a, y + a, y + b ),
1165       )
1166     }
1167   }
1168
1169   if ( if_points == 1 ){
1170     if (F){
1171       for (i in 1:nrow(points)){
1172         x <- points[i,1]
1173         y <- points[i,2]
1174
1175       polygon(
1176         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1177         - c, x ),
1178         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1179         a, y + a, y + b ),
1180       )
1181     }
1182   }
1183
1184   if ( if_points == 1 ){
1185     if (F){
1186       for (i in 1:nrow(points)){
1187         x <- points[i,1]
1188         y <- points[i,2]
1189
1190       polygon(
1191         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1192         - c, x ),
1193         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1194         a, y + a, y + b ),
1195       )
1196     }
1197   }
1198
1199   if ( if_points == 1 ){
1200     if (F){
1201       for (i in 1:nrow(points)){
1202         x <- points[i,1]
1203         y <- points[i,2]
1204
1205       polygon(
1206         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1207         - c, x ),
1208         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1209         a, y + a, y + b ),
1210       )
1211     }
1212   }
1213
1214   if ( if_points == 1 ){
1215     if (F){
1216       for (i in 1:nrow(points)){
1217         x <- points[i,1]
1218         y <- points[i,2]
1219
1220       polygon(
1221         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1222         - c, x ),
1223         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1224         a, y + a, y + b ),
1225       )
1226     }
1227   }
1228
1229   if ( if_points == 1 ){
1230     if (F){
1231       for (i in 1:nrow(points)){
1232         x <- points[i,1]
1233         y <- points[i,2]
1234
1235       polygon(
1236         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1237         - c, x ),
1238         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1239         a, y + a, y + b ),
1240       )
1241     }
1242   }
1243
1244   if ( if_points == 1 ){
1245     if (F){
1246       for (i in 1:nrow(points)){
1247         x <- points[i,1]
1248         y <- points[i,2]
1249
1250       polygon(
1251         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1252         - c, x ),
1253         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1254         a, y + a, y + b ),
1255       )
1256     }
1257   }
1258
1259   if ( if_points == 1 ){
1260     if (F){
1261       for (i in 1:nrow(points)){
1262         x <- points[i,1]
1263         y <- points[i,2]
1264
1265       polygon(
1266         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1267         - c, x ),
1268         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1269         a, y + a, y + b ),
1270       )
1271     }
1272   }
1273
1274   if ( if_points == 1 ){
1275     if (F){
1276       for (i in 1:nrow(points)){
1277         x <- points[i,1]
1278         y <- points[i,2]
1279
1280       polygon(
1281         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1282         - c, x ),
1283         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1284         a, y + a, y + b ),
1285       )
1286     }
1287   }
1288
1289   if ( if_points == 1 ){
1290     if (F){
1291       for (i in 1:nrow(points)){
1292         x <- points[i,1]
1293         y <- points[i,2]
1294
1295       polygon(
1296         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1297         - c, x ),
1298         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1299         a, y + a, y + b ),
1300       )
1301     }
1302   }
1303
1304   if ( if_points == 1 ){
1305     if (F){
1306       for (i in 1:nrow(points)){
1307         x <- points[i,1]
1308         y <- points[i,2]
1309
1310       polygon(
1311         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1312         - c, x ),
1313         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1314         a, y + a, y + b ),
1315       )
1316     }
1317   }
1318
1319   if ( if_points == 1 ){
1320     if (F){
1321       for (i in 1:nrow(points)){
1322         x <- points[i,1]
1323         y <- points[i,2]
1324
1325       polygon(
1326         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1327         - c, x ),
1328         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1329         a, y + a, y + b ),
1330       )
1331     }
1332   }
1333
1334   if ( if_points == 1 ){
1335     if (F){
1336       for (i in 1:nrow(points)){
1337         x <- points[i,1]
1338         y <- points[i,2]
1339
1340       polygon(
1341         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1342         - c, x ),
1343         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1344         a, y + a, y + b ),
1345       )
1346     }
1347   }
1348
1349   if ( if_points == 1 ){
1350     if (F){
1351       for (i in 1:nrow(points)){
1352         x <- points[i,1]
1353         y <- points[i,2]
1354
1355       polygon(
1356         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1357         - c, x ),
1358         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1359         a, y + a, y + b ),
1360       )
1361     }
1362   }
1363
1364   if ( if_points == 1 ){
1365     if (F){
1366       for (i in 1:nrow(points)){
1367         x <- points[i,1]
1368         y <- points[i,2]
1369
1370       polygon(
1371         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1372         - c, x ),
1373         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1374         a, y + a, y + b ),
1375       )
1376     }
1377   }
1378
1379   if ( if_points == 1 ){
1380     if (F){
1381       for (i in 1:nrow(points)){
1382         x <- points[i,1]
1383         y <- points[i,2]
1384
1385       polygon(
1386         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1387         - c, x ),
1388         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1389         a, y + a, y + b ),
1390       )
1391     }
1392   }
1393
1394   if ( if_points == 1 ){
1395     if (F){
1396       for (i in 1:nrow(points)){
1397         x <- points[i,1]
1398         y <- points[i,2]
1399
1400       polygon(
1401         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1402         - c, x ),
1403         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1404         a, y + a, y + b ),
1405       )
1406     }
1407   }
1408
1409   if ( if_points == 1 ){
1410     if (F){
1411       for (i in 1:nrow(points)){
1412         x <- points[i,1]
1413         y <- points[i,2]
1414
1415       polygon(
1416         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1417         - c, x ),
1418         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1419         a, y + a, y + b ),
1420       )
1421     }
1422   }
1423
1424   if ( if_points == 1 ){
1425     if (F){
1426       for (i in 1:nrow(points)){
1427         x <- points[i,1]
1428         y <- points[i,2]
1429
1430       polygon(
1431         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1432         - c, x ),
1433         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1434         a, y + a, y + b ),
1435       )
1436     }
1437   }
1438
1439   if ( if_points == 1 ){
1440     if (F){
1441       for (i in 1:nrow(points)){
1442         x <- points[i,1]
1443         y <- points[i,2]
1444
1445       polygon(
1446         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1447         - c, x ),
1448         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1449         a, y + a, y + b ),
1450       )
1451     }
1452   }
1453
1454   if ( if_points == 1 ){
1455     if (F){
1456       for (i in 1:nrow(points)){
1457         x <- points[i,1]
1458         y <- points[i,2]
1459
1460       polygon(
1461         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1462         - c, x ),
1463         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1464         a, y + a, y + b ),
1465       )
1466     }
1467   }
1468
1469   if ( if_points == 1 ){
1470     if (F){
1471       for (i in 1:nrow(points)){
1472         x <- points[i,1]
1473         y <- points[i,2]
1474
1475       polygon(
1476         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1477         - c, x ),
1478         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1479         a, y + a, y + b ),
1480       )
1481     }
1482   }
1483
1484   if ( if_points == 1 ){
1485     if (F){
1486       for (i in 1:nrow(points)){
1487         x <- points[i,1]
1488         y <- points[i,2]
1489
1490       polygon(
1491         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1492         - c, x ),
1493         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1494         a, y + a, y + b ),
1495       )
1496     }
1497   }
1498
1499   if ( if_points == 1 ){
1500     if (F){
1501       for (i in 1:nrow(points)){
1502         x <- points[i,1]
1503         y <- points[i,2]
1504
1505       polygon(
1506         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1507         - c, x ),
1508         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1509         a, y + a, y + b ),
1510       )
1511     }
1512   }
1513
1514   if ( if_points == 1 ){
1515     if (F){
1516       for (i in 1:nrow(points)){
1517         x <- points[i,1]
1518         y <- points[i,2]
1519
1520       polygon(
1521         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1522         - c, x ),
1523         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1524         a, y + a, y + b ),
1525       )
1526     }
1527   }
1528
1529   if ( if_points == 1 ){
1530     if (F){
1531       for (i in 1:nrow(points)){
1532         x <- points[i,1]
1533         y <- points[i,2]
1534
1535       polygon(
1536         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1537         - c, x ),
1538         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1539         a, y + a, y + b ),
1540       )
1541     }
1542   }
1543
1544   if ( if_points == 1 ){
1545     if (F){
1546       for (i in 1:nrow(points)){
1547         x <- points[i,1]
1548         y <- points[i,2]
1549
1550       polygon(
1551         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1552         - c, x ),
1553         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1554         a, y + a, y + b ),
1555       )
1556     }
1557   }
1558
1559   if ( if_points == 1 ){
1560     if (F){
1561       for (i in 1:nrow(points)){
1562         x <- points[i,1]
1563         y <- points[i,2]
1564
1565       polygon(
1566         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1567         - c, x ),
1568         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1569         a, y + a, y + b ),
1570       )
1571     }
1572   }
1573
1574   if ( if_points == 1 ){
1575     if (F){
1576       for (i in 1:nrow(points)){
1577         x <- points[i,1]
1578         y <- points[i,2]
1579
1580       polygon(
1581         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1582         - c, x ),
1583         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1584         a, y + a, y + b ),
1585       )
1586     }
1587   }
1588
1589   if ( if_points == 1 ){
1590     if (F){
1591       for (i in 1:nrow(points)){
1592         x <- points[i,1]
1593         y <- points[i,2]
1594
1595       polygon(
1596         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1597         - c, x ),
1598         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1599         a, y + a, y + b ),
1600       )
1601     }
1602   }
1603
1604   if ( if_points == 1 ){
1605     if (F){
1606       for (i in 1:nrow(points)){
1607         x <- points[i,1]
1608         y <- points[i,2]
1609
1610       polygon(
1611         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1612         - c, x ),
1613         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1614         a, y + a, y + b ),
1615       )
1616     }
1617   }
1618
1619   if ( if_points == 1 ){
1620     if (F){
1621       for (i in 1:nrow(points)){
1622         x <- points[i,1]
1623         y <- points[i,2]
1624
1625       polygon(
1626         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1627         - c, x ),
1628         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1629         a, y + a, y + b ),
1630       )
1631     }
1632   }
1633
1634   if ( if_points == 1 ){
1635     if (F){
1636       for (i in 1:nrow(points)){
1637         x <- points[i,1]
1638         y <- points[i,2]
1639
1640       polygon(
1641         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1642         - c, x ),
1643         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1644         a, y + a, y + b ),
1645       )
1646     }
1647   }
1648
1649   if ( if_points == 1 ){
1650     if (F){
1651       for (i in 1:nrow(points)){
1652         x <- points[i,1]
1653         y <- points[i,2]
1654
1655       polygon(
1656         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1657         - c, x ),
1658         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1659         a, y + a, y + b ),
1660       )
1661     }
1662   }
1663
1664   if ( if_points == 1 ){
1665     if (F){
1666       for (i in 1:nrow(points)){
1667         x <- points[i,1]
1668         y <- points[i,2]
1669
1670       polygon(
1671         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1672         - c, x ),
1673         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1674         a, y + a, y + b ),
1675       )
1676     }
1677   }
1678
1679   if ( if_points == 1 ){
1680     if (F){
1681       for (i in 1:nrow(points)){
1682         x <- points[i,1]
1683         y <- points[i,2]
1684
1685       polygon(
1686         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1687         - c, x ),
1688         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1689         a, y + a, y + b ),
1690       )
1691     }
1692   }
1693
1694   if ( if_points == 1 ){
1695     if (F){
1696       for (i in 1:nrow(points)){
1697         x <- points[i,1]
1698         y <- points[i,2]
1699
1700       polygon(
1701         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1702         - c, x ),
1703         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1704         a, y + a, y + b ),
1705       )
1706     }
1707   }
1708
1709   if ( if_points == 1 ){
1710     if (F){
1711       for (i in 1:nrow(points)){
1712         x <- points[i,1]
1713         y <- points[i,2]
1714
1715       polygon(
1716         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1717         - c, x ),
1718         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1719         a, y + a, y + b ),
1720       )
1721     }
1722   }
1723
1724   if ( if_points == 1 ){
1725     if (F){
1726       for (i in 1:nrow(points)){
1727         x <- points[i,1]
1728         y <- points[i,2]
1729
1730       polygon(
1731         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1732         - c, x ),
1733         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1734         a, y + a, y + b ),
1735       )
1736     }
1737   }
1738
1739   if ( if_points == 1 ){
1740     if (F){
1741       for (i in 1:nrow(points)){
1742         x <- points[i,1]
1743         y <- points[i,2]
1744
1745       polygon(
1746         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1747         - c, x ),
1748         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1749         a, y + a, y + b ),
1750       )
1751     }
1752   }
1753
1754   if ( if_points == 1 ){
1755     if (F){
1756       for (i in 1:nrow(points)){
1757         x <- points[i,1]
1758         y <- points[i,2]
1759
1760       polygon(
1761         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1762         - c, x ),
1763         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1764         a, y + a, y + b ),
1765       )
1766     }
1767   }
1768
1769   if ( if_points == 1 ){
1770     if (F){
1771       for (i in 1:nrow(points)){
1772         x <- points[i,1]
1773         y <- points[i,2]
1774
1775       polygon(
1776         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1777         - c, x ),
1778         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1779         a, y + a, y + b ),
1780       )
1781     }
1782   }
1783
1784   if ( if_points == 1 ){
1785     if (F){
1786       for (i in 1:nrow(points)){
1787         x <- points[i,1]
1788         y <- points[i,2]
1789
1790       polygon(
1791         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1792         - c, x ),
1793         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1794         a, y + a, y + b ),
1795       )
1796     }
1797   }
1798
1799   if ( if_points == 1 ){
1800     if (F){
1801       for (i in 1:nrow(points)){
1802         x <- points[i,1]
1803         y <- points[i,2]
1804
1805       polygon(
1806         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1807         - c, x ),
1808         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1809         a, y + a, y + b ),
1810       )
1811     }
1812   }
1813
1814   if ( if_points == 1 ){
1815     if (F){
1816       for (i in 1:nrow(points)){
1817         x <- points[i,1]
1818         y <- points[i,2]
1819
1820       polygon(
1821         x=c( x + c, x + c, x, x - c, x
1822         - c, x ),
1823         y=c( y + a, y - a, y - b, y -
1824         a, y + a, y + b ),
1825       )
1826     }
1827   }
1828
1829   if ( if_points == 1 ){
1830     if (F){
1831       for (i in 1:nrow(points)){
1832         x <- points[i,1]
1833         y <- points[i,2]
1834

```

```

953      col=color_ptf,
954      border=color_pte,
955      lty=1,
956      )
957  }
958 } else {
959   symbols(
960   points[,1],
961   points[,2],
962   squares=rep(0.35,length(point
963   s[,1])),
964   #circles=rep(0.2,length(point
965   s[,1])),
966   fg="gray70",
967   bg=color_ptf,
968   inches=F,
969   add=T,
970   )
971 }
972 library(maptools)
973 if (is.null(labcd) == 1){
974   labcd <- pointLabel(
975   x=points[,1],
976   y=points[,2],
977   labels=word_labs,
978   doPlot=F,
979   cex=cex,
980   offset=0
981   )
982
983   xorg <- points[,1]
984   yorg <- points[,2]
985   #cex <- 1
986
987   if ( length(xorg) < 300 ) {
988     library(wordcloud)
989
990     filename <- tempfile()
991     writeLines("wordlayout <- functio
992       n (x, y, words, cex = 1, rotat
993       e90 = FALSE, xlim = c(-Inf,
994       Inf), ylim = c(-Inf, Inf), tste
995       p = 0.1, rstep = 0.1, ...)
996     {
997       tails <- \\"g|j|p|q|y\\"
998       n <- length(words)
999       sdx <- sd(x, na.rm = TRUE)
1000      sdy <- sd(y, na.rm = TRUE)
1001      iterations <- 0
1002      if (sdx == 0)
1003        sdx <- 1
1004      if (sdy == 0)
1005        sdy <- 1
1006      if (length(cex) == 1)
1007        cex <- rep(cex, n)
1008      if (length(rotate90) == 1)
1009        rotate90 <- rep(rotate90, n)
1010      boxes <- list()
1011
1012      for (i in 1:length(words)) {
1013        rotWord <- rotate90[i]
1014        r <- 0
1015        theta <- runif(1, 0, 2 * pi)
1016        x1 <- xo <- x[i]
1017        y1 <- yo <- y[i]
1018        wid <- strwidth(words[i], ce
1019        x = cex[i], ...)
1020        ht <- strheight(words[i], ce
1021        x = cex[i], ...)
1022        if (grepl(tails, words[i]))
1023          ht <- ht + ht * 0.2
1024        if (rotWord) {
1025          tmp <- ht
1026          ht <- wid
1027          wid <- tmp
1028        }
1029        isOverlaped <- TRUE
1030        while (isOverlaped) {
1031          if (!.overlap(x1 - 0.5 * wi
1032          d, y1 - 0.5 * ht, wid,
1033          ht, boxes) && x1 - 0.5 *
1034          wid > xlim[1] && y1 -
1035          0.5 * ht > ylim[1] && x1
1036          + 0.5 * wid < xlim[2] &
1037          &
1038          y1 + 0.5 * ht < ylim[2])
1039          {
1040            boxes[[length(boxes) +
1041            1]] <- c(x1 - 0.5 * wid,
1042            y1 - 0.5 * ht, wid, ht)
1043            isOverlaped <- FALSE
1044          }
1045        else {
1046          theta <- theta + tstep
1047          r <- r + rstep * tstep/(2
1048          * pi)
1049          x1 <- xo + sdx * r * cos(
1050          theta)
1051          y1 <- yo + sdy * r * sin(
1052          theta)
1053          iterations <- iterations
1054          + 1
1055          if (iterations > 500000){
1056            boxes[[length(boxes) +
1057            1]] <- c(x1 - 0.5 * wi
1058            d,
1059            y1 - 0.5 * ht, wid, ht)
1060            isOverlaped = FALSE
1061          }
1062        }
1063      }
1064      print( paste("iterations: ", ite
1065      rations) )
1066      result <- do.call(rbind, boxe
1067      s)
1068      colnames(result) <- c(\"x\",
1069      \"y\", \"width\", \"ht\")
1070      rownames(result) <- words
1071      result
1072    }
1073  }
1074 }

```

```

1053 }
1054 ", filename)
1055 insertSource(filename, package="word
  cloud", force=FALSE)
1056 nc <- wordlayout(
1057   labcd$x,
1058   labcd$y,
1059   word_labs,
1060   cex=cex * 1.25,
1061   xlim=c( par( "usr" )[1], par( "u
  sr" )[2] ),
1062   ylim=c( par( "usr" )[3], par( "u
  sr" )[4] )
1063 )
1064
1065 xlen <- par("usr")[2] - par("usr
  ")[1]
1066 ylen <- par("usr")[4] - par("usr
  ")[3]
1067
1068 segs <- NULL
1069 for (i in 1:length(word_labs) ){
1070   x <- ( nc[i,1] + .5 * nc[i,3] - la
  bcd$x[i] ) / xlen
1071   y <- ( nc[i,2] + .5 * nc[i,4] - la
  bcd$y[i] ) / ylen
1072   dst <- sqrt( x^2 + y^2 )
1073   if ( dst > 0.05 ){
1074     segs <- rbind(
1075       segs,
1076       c(
1077         nc[i,1] + .5 * nc[i,3], nc[
1078           i,2] + .5 * nc[i,4],
1079           xorg[i], yorg[i]
1080         )
1081       )
1082     }
1083
1084 xorg <- labcd$x
1085 yorg <- labcd$y
1086 labcd$x <- nc[,1] + .5 * nc[,3]
1087 labcd$y <- nc[,2] + .5 * nc[,4]
1088 }
1089
1090
1091 }
1092
1093 if ( exists("segs" ) ){
1094   if ( is.null(segs) == F ){
1095     for (i in 1:nrow(segs) ){
1096       segments(
1097         segs[i,1],segs[i,2],segs[i,3],segs[
1098           i,4],
1099           col="gray60",
1100           lwd=1
1101         )
1102       }
1103   }
1104
1105 text(
1106   labcd$x,
1107   labcd$y,
1108   labels=word_labs,
1109   cex=cex,
1110   offset=0,
1111   font=text_font
1112 )
1113
1114 if ( exists("out_coord" ) == F ) {
1115   out_coord <- cbind(
1116     labcd$x / (n_nodes-0.5),
1117     labcd$y / (n_nodes-1)
1118   )
1119 }
1120
1121 points1<-head(points,n=190)
1122 par(new=T)
1123 plot(points1[,1],points1[,2],type="c",co
l="red")
1124
1125 points2<-tail(points,n=190)
1126 par(new=T)
1127 plot(points2[,1],points2[,2],type="c",co
l="blue")

```